Kodak

i5x50 シリーズスキャナー

ISIS アプリケーション用
スキャンセットアップガイド

A-61849_ja

目次

ISIS ドライバの使用 1
Scan Validation Tool 1
[Scan Validation Tool] の起動 1
Scan Validation Tool ツールバーのボタン 2
イメージ設定の実行 4
［メイン］タブ 6
［レイアウト］タブ 8
［スキャン領域］ダイアログボックス 9
［イメージ処理］タブ 11
［カラーの自動検知］タブ 14
［ドロップアウト］タブ 16
［調整］タブ 19
［背景］タブ 21
［イメージの端を埋める］タブ 23
［白紙イメージ検出］タブ 24
［バーコード読み取り］タブ 26
スキャナー設定の実行 28
［スキャナー］タブ 29
［重送検知］タブ 34
［インプリンタ］タブ 39
インプリンタフォーマット表 45
［インデックス］タブ 46
［パッチ / バッチ］タブ 51
［パッチ］タブ 54
［スタッキング］タブ 56
スタッキングオプションを使用する場合の推奨設定 58
[ログ] タブ 62
[デバッグ] タブ 63
[バージョン情報] タブ 64
ソート設定の実行 65
ソートルールの優先順位 66
[一般ソーター] タブ 67
重送 67
サイズ 67
[サイズソーター設定] ウィンドウ 68
[パッチソーター] タブ 69
[パッチソーター設定] ウィンドウ 70
[バーコードソーター] タブ 72
[バーコードソーター設定] ウィンドウ 74
バーコードルールの基準 74
[ソーター用バーコード基準] ウィンドウ 76

ISIS ドライバの使用

本ガイドでは ISIS ドライバの使用手順やスキャナーの機能について説明します。各機能は、使用されるスキャンアプリケーションのユーザインタフェースでも選択できます。

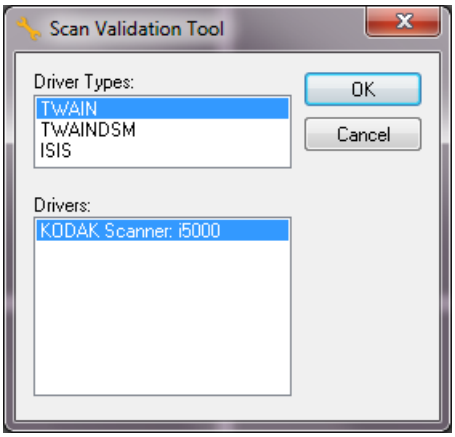
本ガイドでは、デフォルトの ISIS ドライバインターフェースについて説明します。お使いのアプリケーションで、目的に合わせて ISIS ドライバのユーザーインターフェイスを変更することができます。アプリケーションプロバイダが ISIS ドライバのインターフェイスをカスタマイズしている場合は、このガイドで説明しているデフォルト画面とは異なる場合があります。

Scan Validation Tool

Scan Validation Tool (SVT) は Kodak Alaris Inc. 提供の便利な診断アプリケーションです。SVT ユーザインタフェースでスキャナーのすべての機能にアクセスできるため、スキャナーが正常に動作しているかどうか効率的にチェックできます。Scan Validation Tool では、TWAIN/TWAINDSM データソースまたは ISIS ドライバを使用してスキャナーの機能を検証できます。

[Scan Validation Tool] の起動

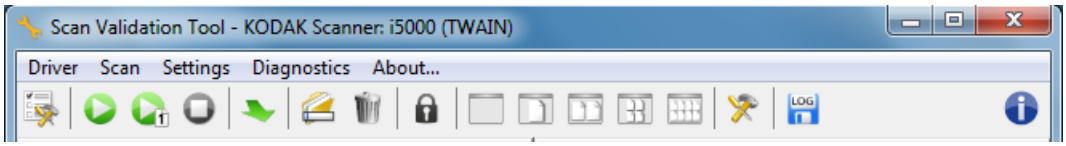
1. **[スタート]>[プログラム]>[Kodak]>[原稿のイメージング]>[i5x50]>[SVT 診断]** の順に選択します。



2. [ドライバの種類] に **ISIS** を選択し、[ドライバ] に ***Kodak* Scanner i5x50 Scanner** を選択します。PIXDFLTN.DLL が Windows 32 ビットシステムフォルダにある場合のみ、このオプションを使用できます。

   [Scan Validation Tool] ダイアログボックスが表示されます。

.



Scan Validation Tool ツールバーのボタン

STV ツールバーのボタンで次の機能を実行できます。



セットアップ — 選択されたドライバ用のユーザインタフェースを表示します。



スキャン開始 — 入力エレベータにある原稿をスキャンします。



1 ページスキャン — 1 ページだけスキャンします。



停止 — スキャンを終了します。



ドライバを変更 / 開く — 現在開いているドライバを閉じ、[ドライバ選択] ウィンドウを表示します。



保存先 — スキャンしたイメージを保存するディレクトリとファイル名を選択します。このオプションは、**[イメージをファイルに保存]** を選択した場合のみ利用できます。



削除 — 選択したイメージを削除します。



ライセンスキー — [ライセンスキー] ウィンドウを表示します。



表示モード（画像なし） — イメージビューアウィンドウを閉じます（イメージは表示されません）。



表示モード（1 画像） — 1 回に 1 枚のイメージを表示します。



表示モード（2 画像） — 1 回に 2 枚のイメージを表示します。



表示モード（4 画像） — 1 回に 4 枚のイメージを表示します。



表示モード（8 画像） — 1 回に 8 枚のイメージを表示します。



TWAIN 設定 — [TWAIN 設定] ウィンドウを表示します。

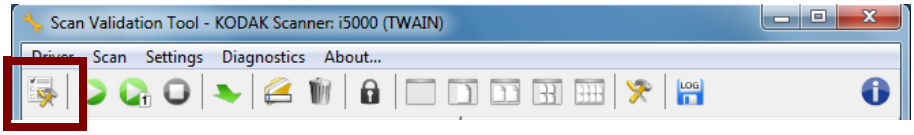


ログの保存 — ログファイルを保存できます。

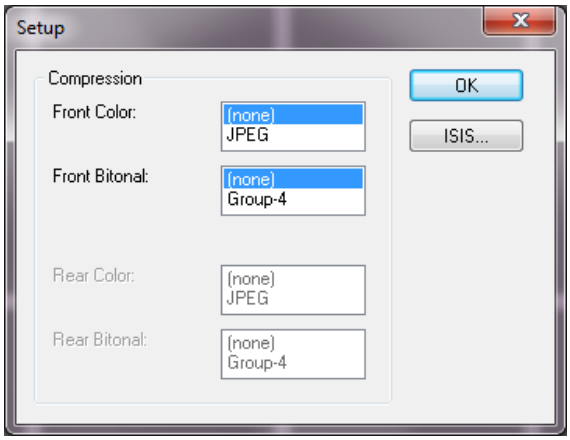


バージョン情報 — [バージョン情報] ウィンドウを表示します。

Scan Validation Tool のメイン画面で **[セットアップ]** アイコンをクリックします。

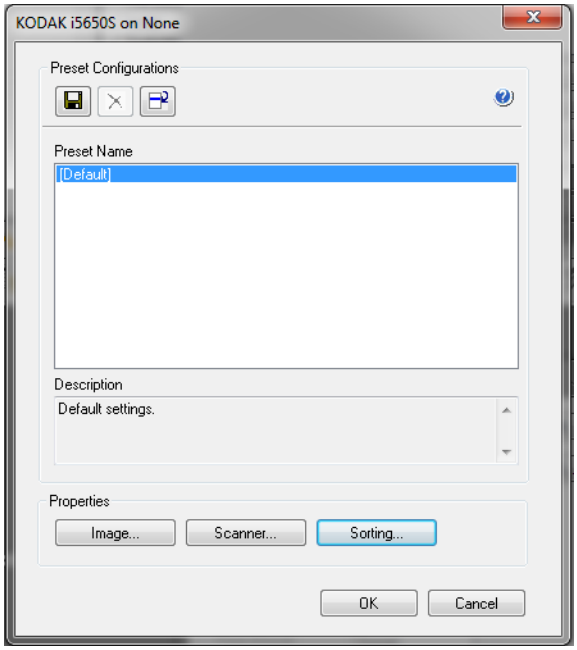


[セットアップ] ダイアログボックスが表示されます。



3. **ISIS** をクリックします。[プリセット設定] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには保存されたドライバ設定のリストがあります。

   プリセットは保存、削除、インポートが可能で、既存のプリセットの選択や設定の変更ができます。



4. **[イメージ]** をクリックすると、イメージ関連の設定ができます。

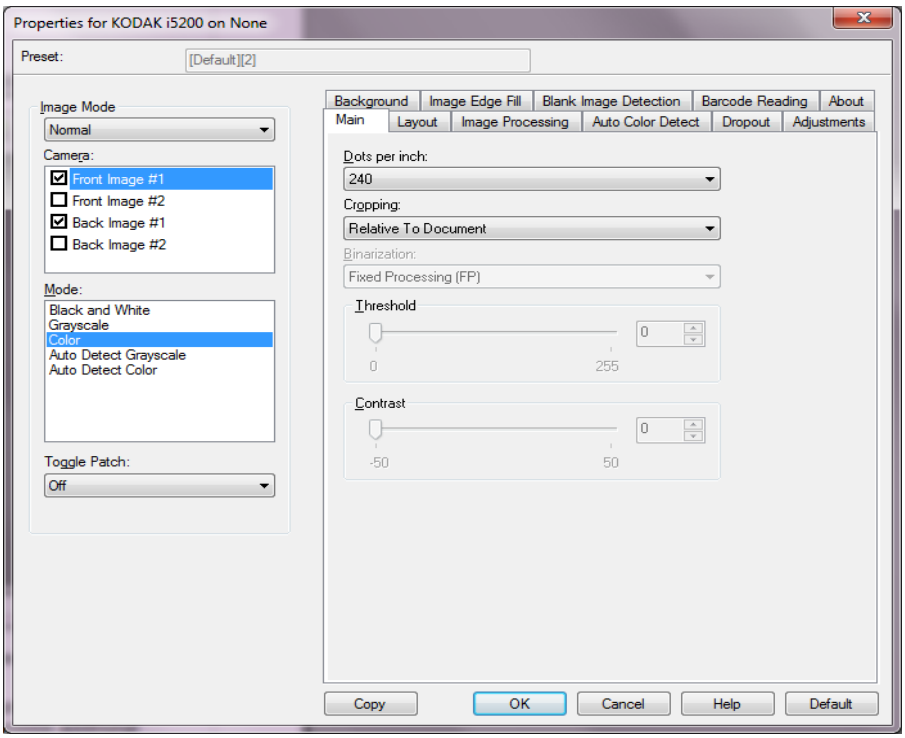
   以降の章ではイメージ設定の詳細や手順について説明します。スキャナー設定手順については、『スキャナー設定の実行』という章を参照してください。ソート設定手順については、『ソート設定の実行』という章を参照してください。

イメージ設定の実行

ISIS ドライバのメインウィンドウには、イメージ設定用のデフォルトタブがあります。スキャンの目的やニーズに合わせて、これらのタブを使ってオプションを設定できます。

ここでは、(Scan Validation Tool で表示される) ISIS ドライバのデフォルトインタフェースについて説明します。ホストアプリケーションは一部のタブを非表示にしたり、表示されるオプションを制限したりすることで、インタフェースを変更することができます。

注：(メイン、レイアウト、イメージ処理など) すべてのイメージタブでは **イメージモード** と **カラーパッチ** が選択可能です。



イメージモード ― 次のいずれかのオプションを選択します。

- **[標準]** ― 通常は 1 枚の原稿につき、表面に 1 つのイメージが作成され、裏面に別のイメージが作成されます。表面と裏面のそれぞれに一つずつ別のイメージを作成する場合に選択します。
- **[結合]** ― 原稿の表面と裏面の両方のイメージを含む 1 つのイメージが必要な場合に、このオプションを選択します。*イメージ結合* では次のオプションを選択できます。**[表面を上]**、**[表面を下]**、**[表面を左]** または **[表面を右]**。

[カメラ] ― 読取り面 (表面および裏面) カメラが一覧表示され、それぞれの面でイメージ処理値を定義できます。オプションには、**[表面イメージ 1]**、**[表面イメージ 2]**、**[裏面イメージ 1]**、**[裏面イメージ 2] があります**。

コダックスキャナーのドライバでは、カメラ設定を個別に設定できます。白黒イメージに適用される設定や、カラー / グレースケールイメージに適用される設定があります。

- **[モード]** — 以下のいずれかのモードを選択します。
  - **[白黒]**: 白黒の 2 階調で構成したイメージを作成する場合に選択します。
  - **[グレースケール]**: イメージを黒から白のさまざまなグレーの色合いで作成する場合に選択します。
  - **[カラー]** : イメージをカラーにする場合に選択します。
  - **[グレースケール自動検知]**: カラー自動検知のグレースケールスキャンを設定します。詳細は、「[カラー自動検知] タブ」を参照してください。
  - **[カラー自動検知]**: カラー自動検知のカラースキャンを設定します。詳細は、「[カラー自動検知] タブ」を参照してください。

[トグルパッチ] — トグルパッチを印刷した原稿から、スキャナーでその原稿がカラー／グレースケールまたは白黒のいずれかを判断します。

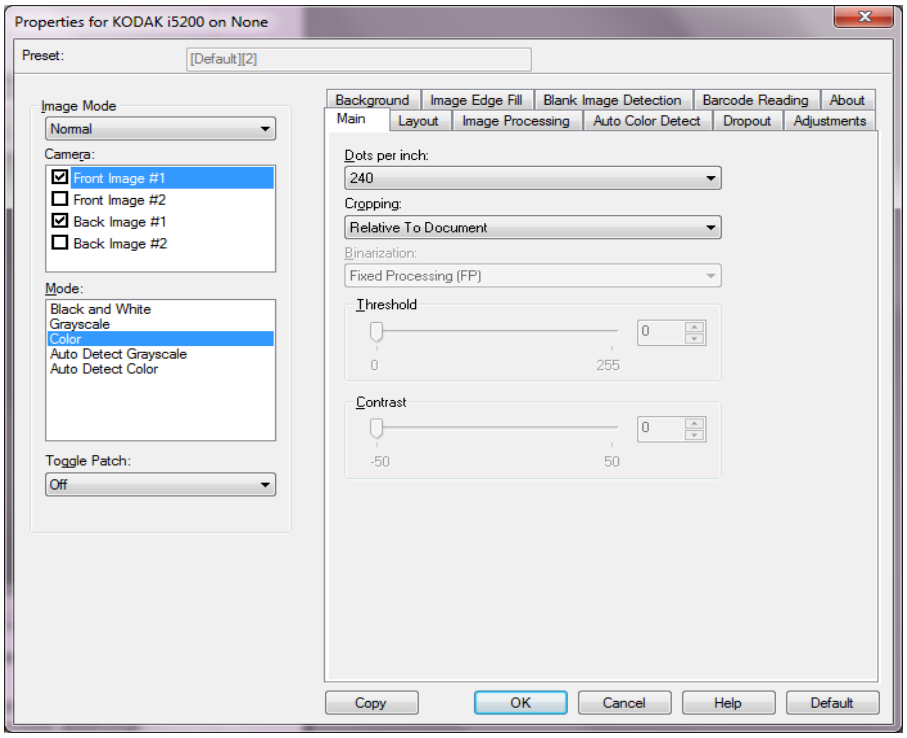
- **[オフ]** : パッチは使用されません。
- **表面** : パッチシートを認識する片面のみ切り替わります。
- **両面** : パッチは両面で認識されます。

[ボタン] — ウィンドウ下部にあるボタンは、すべてのタブに対して適用されます。

- **[コピー]** — 両面原稿をスキャンする場合のみ利用できます。片面のカラー、グレースケール、白黒イメージの設定を定義してから、［コピー］ボタンをクリックすると、その設定内容を裏面にコピーすることができます。たとえば、**[表面イメージ 1]** を設定してから、［コピー］ボタンをクリックすると、その設定内容を **[裏面イメージ 1]** にコピーできます。
- **OK** — すべてのタブの設定値を保存します。
- **キャンセル** — 変更内容を保存せずにウィンドウを閉じます。
- **[ヘルプ]** — 選択されたウィンドウに示されたオプションについてオンラインヘルプを表示します。
- **[デフォルト]** — 全てのタブの値をデフォルト設定に戻します。

[メイン] タブ

［メイン］タブには、以下のオプションがあります。



[1 インチあたりのドット数] (dpi) または解像度 — スキャン解像度を指定します。この設定はスキャンするイメージの品質に大きく影響します。解像度を高くすると、画質が良くなります。ただし、高い解像度でスキャンすると、スキャンに要する時間が長くなり、ファイルサイズが大きくなります。

解像度の値はドロップダウンリストから選択します。デフォルトは 200 dpi です。解像度は 100、150、200、240、250、300、400、500、600 dpi です。

[クロップ] — スキャン原稿の一部を取得できます。クロッピングオプションは、カラー / グレースケール、白黒イメージですべて使用できます。表面と裏面のクロッピングを個別に設定できますが、同時出力スキャンの場合は、カラー / グレースケールクロッピングと白黒クロッピングを読取り面ごとに同じ値に設定する必要があります。クロッピングオプションは、1 イメージに対して 1 つだけ適用可能です。

- **自動**：原稿サイズ毎にクロッピングウィンドウを原稿の縁に合わせて直接調整します。
- **[アグレッシブ]**：イメージの端にある黒い外枠を除去します。これを選択すると、原稿の端のイメージデータが一部失われる可能性があります。
- **ガイド幅に合わせる**：（同じサイズの原稿をまとめてスキャンする場合）イメージとして出力する領域を定義できます。[ガイド幅に合わせる] クロッピングは、用紙サイズとページレイアウトを合わせて、原稿を中央に揃えてスキャンする場合に使用します。中央に揃えない場合は、[レイアウト] タブを選択してスキャンを設定する必要があります。詳細については、本ガイドに後述の「[レイアウト] タブ」を参照ください。

- **ドキュメントに合わせる**：（ゾーンプロセッシング）：（同一サイズの複数ページの原稿に使用）— ゾーンプロセッシングは、原稿の左上コーナーに対応してレイアウトできる浮動固定クロップウィンドウ（ゾーン）です。そのエリアをカラー / グレースケールで処理するか白黒で処理するか選択することができます（白黒とカラー/ グレースケールを別のウィンドウに定義することもできます）。パラメータは、イメージの表面と裏面でそれぞれ選択できます。

  このオプションは、ある部分をカラー/ グレースケールまたは白黒で別々に保存したい場合、自動クロッピングと使用します。写真、署名、エンボス（浮き出し）、印章など、対象となる部分が一定の場所に配置されている場合に大変効果的です（対象の小さい部分をカラー/ グレースケールでスキャンし、残りの部分を白黒でスキャンする場合など）。ゾーンを定義するには、[レイアウト] タブを選択します。

[バイナリゼイション] — オプションは、グレースケールイメージに適用して白黒イメージを出力します。背景色や濃度が異なっていたり、前景情報の色や濃度が異なっていても、背景情報から前景情報を区別できる特長があります。同じ画像処理パラメータを使用してさまざまなタイプの原稿をスキャンでき、優れたスキャンイメージを得ることができます。

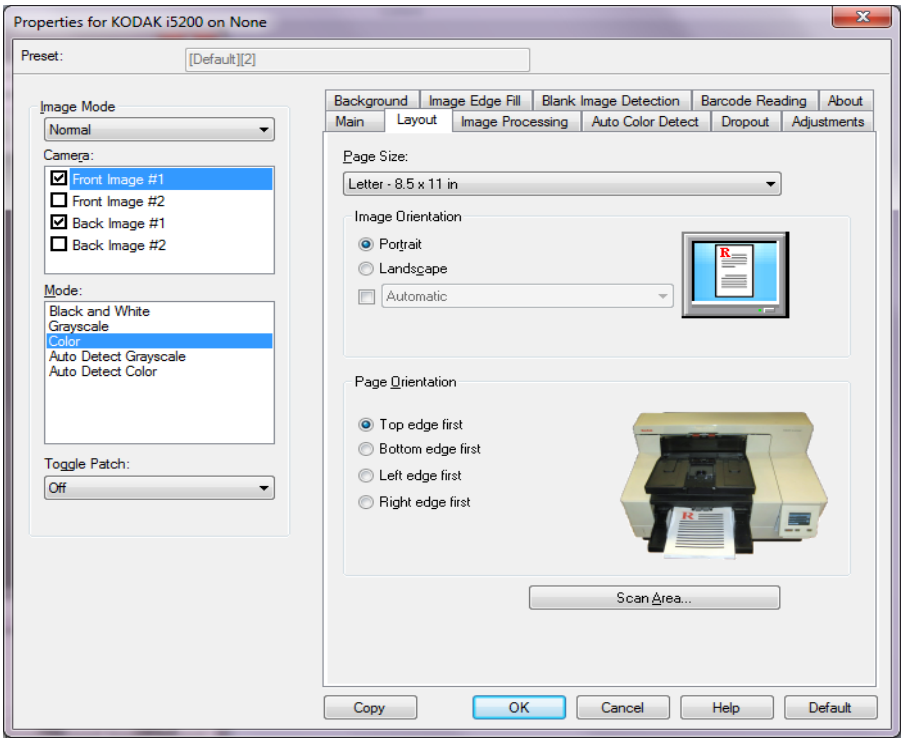
- **iThresholding**：高品質のイメージを生成するために、原稿を自動的に識別して、最適なしきい値（スレッショルド）が決定されます。単一の設定で品質が異なる原稿（文字のかすれ、濃淡のある背景、カラーの背景など）をスキャンできるので原稿を仕分けする手間を省けます。iThresholding を使用する場合は、[コントラスト] のみ調整可能です。
- **固定処理 (FP)**：白黒の原稿やその他のコントラストの高い原稿に使用します。**[固定処理 (FP)]** を選択した場合は、[しきい値] のみ調整可能です。
- **アダプティブスレッショルド (ATP)**：イメージの前景情報（文字、グラフィック、線など）を背景情報（白または白以外の用紙の背景）と区別します。アダプティブしきい値を使用する場合は、[しきい値] と [コントラスト] を調節できます。類似する書類タイプをスキャンする場合にこのオプションを使用します。

スレッショルド（明るさ）— このオプションは**固定処理**または **Adaptive Thresholding (ATP)** を選択すると使用できます。このオプションを使用すると白黒イメージの色を暗くしたり、明るくしたりできます。しきい値が高いほどイメージの色が暗くなります。スライダを使って、0 ～ 255 の範囲の値を設定してください。デフォルトは 90 です。

コントラスト — 出力イメージの細部のディテールの強調レベルを調整できます。コントラスト値が高いほど、細部のディテールが強調されます。コントラスト値が低いほど、出力イメージはより鮮明（少ないディテール）になります。コントラスト値を高く設定しすぎると、出力イメージに不要な線や、色が濃くなりすぎたりする場合があります。コントラスト値を低く設定しすぎると、出力イメージに必要な線や文字などが表示されない場合があります。コントラスト値の範囲は -50 ～ 50 の範囲です。デフォルトは 50 です。

［レイアウト］タブ

［レイアウト］タブには、以下のオプションがあります。



［用紙サイズ］—スキャナーが最初に選択されたときの初期設定の用紙サイズを設定します。ドロップダウンリストから各用紙サイズを選択できます。**［自動］**または**［アグレッシブ］**クロッピングオプションを使用する際は、用紙サイズを**［スキャナーの最大値］**に設定する必要があります。

イメージ方向

- **縦**：従来の縦長の向きにイメージの方向を表示します。
- **［横］**：横長の向きにイメージを表示します。
- **自動**：スキャナーが各原稿の文字方向を分析して、イメージを適正な方向に回転します。
  - **自動 - デフォルト値 90 度**：スキャナーが各原稿の文字方向を分析して、イメージを適正な方向に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 90 度回転します。
  - **自動 - デフォルト 180 度**：スキャナーが各ドキュメントを分析して、ドキュメントが送信された方法を判断し、イメージを適正な方向に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 180 度回転します。
  - **自動 - デフォルト 270 度**：スキャナーが各ドキュメントを分析して、ドキュメントが送信された方法を判断し、イメージを適正な方向に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 270 度回転します。

[ページの向き] — スキャナーにセットする原稿の向きを選択できます。**[用紙上端より]**、**[用紙下端より]**、**[用紙左端より]**、**[用紙右端より]** のいずれかを選択します。

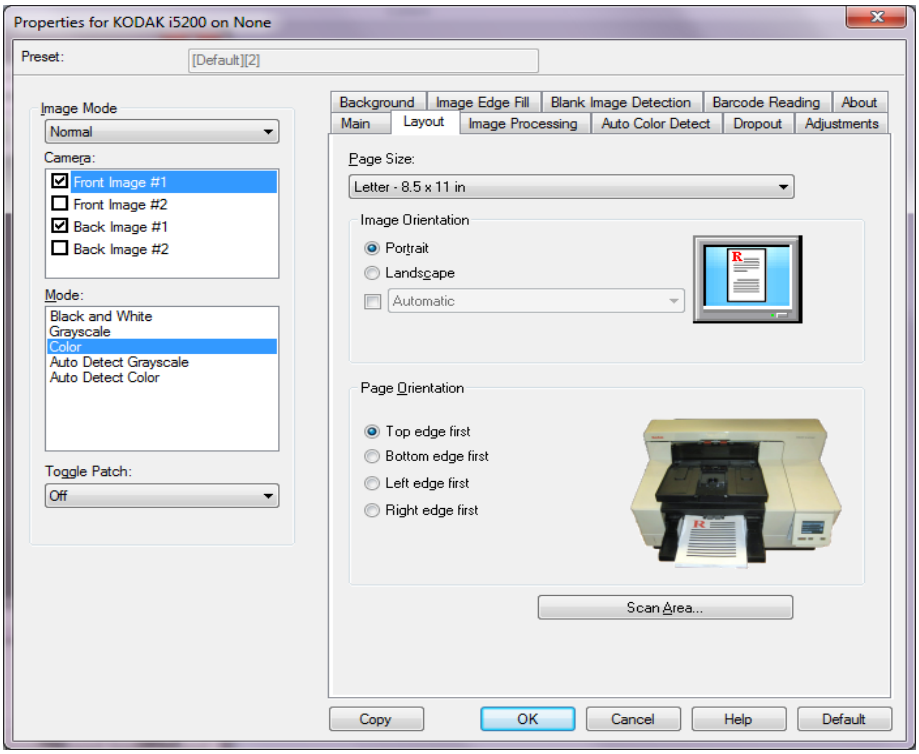
[スキャン領域] — [スキャン領域] ダイアログボックスを表示します。[スキャン領域] オプションは、クロッピングオプションが **[ガイド幅に合わせる]** または **[ドキュメントに合わせる]** に設定されている場合に利用できます。詳細については、「[スキャン領域] ダイアログボックス」を参照してください。

[スキャン領域] ダイアログボックス

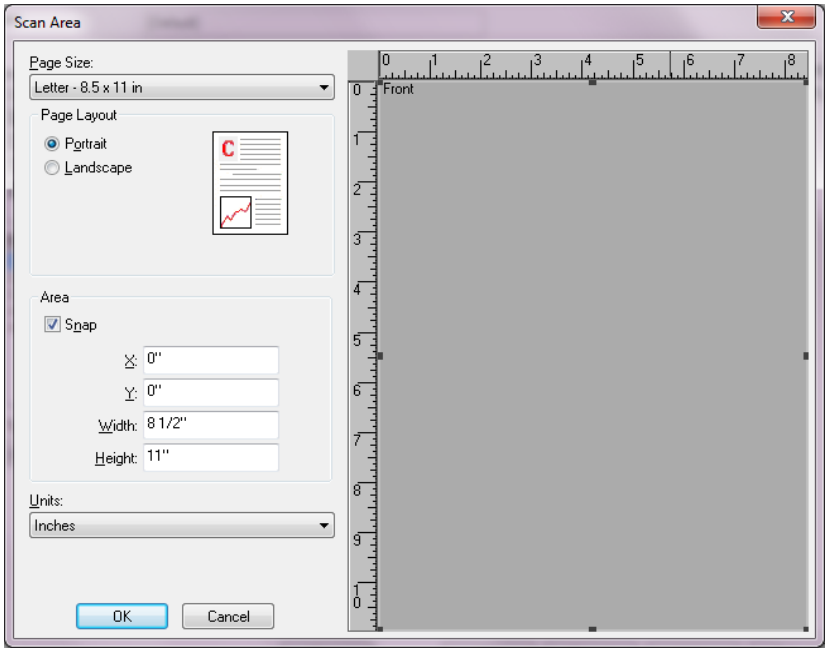
[スキャン領域] ダイアログボックスでは、ホスト PC に返されるイメージデータの広さを定義します。

注：使用する**カメラモード**を選択します（例：**[表面イメージ 1]**、**[表面イメージ 2]**、**[裏面イメージ 1]**、**[裏面イメージ 2]**）。

- スキャン領域ダイアログボックスにアクセスするには、レイアウトタブの**スキャン領域**を選択します。



注：スキャン領域ダイアログボックスは、選択したメインタブで**ガイド幅に合わせる**または**ドキュメントに合わせる**が選択された場合に使用できます。



[用紙サイズ] — スキャナーが最初に選択されたときのデフォルトの用紙サイズを設定します。ドロップダウンリストから用紙サイズを選択できます。

注：用紙サイズはレイアウトタブにも表示されます。[スキャン領域] ダイアログボックスで設定を変更すると、[レイアウト] タブにも変更内容が反映されます。逆の場合も同じです。

ページレイアウト

- **[縦]**：従来の縦長の向きにイメージの方向を表示します。
- **[横]**：横長の向きにイメージを表示します。

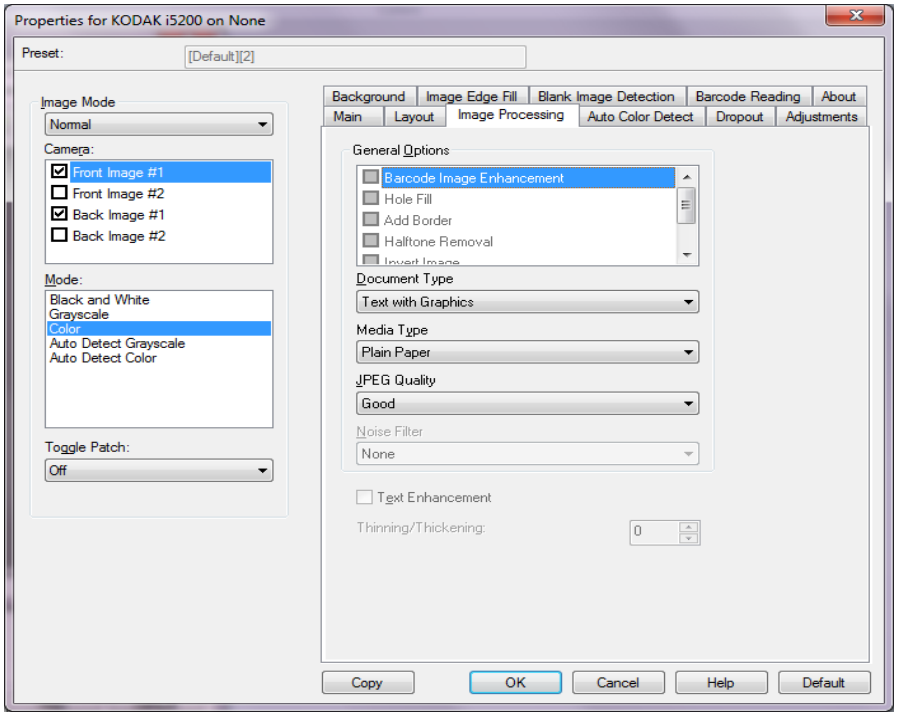
領域

- **[スナップ]**：プレビューウィンドウの大きさを 0.3175 cm 単位で制御する場合に、このオプションを有効にします。このオプションは、**ピクセル**モードでは無効になります。
- **X**：スキャナーの左端からスキャン始点の横位置を設定します。
- **Y**：スキャナーの上端からスキャン始点の縦位置を設定します。
- **幅**：スキャン領域の幅を設定します。
- **高さ**：スキャン領域の高さを設定します。

単位 — 領域定義する単位を **[ピクセル]**、**[インチ]**、**[センチメートル]** から選択します。

［イメージ処理］タブ

［イメージ処理］タブには、以下のオプションがあります。



一般オプション

注：*クロッピング*の選択に応じて、以下のオプションの一部は利用できません。

- **［バーコード画像処理］**— アプリケーションでの読取り用のバーコードを最適化するようにスキャナーを設定します。スキャナーは白黒のイメージの中に 1D と 2D のバーコードを自動的に検出し、スキャン後、容易にバーコード読み取りできるように、検出されたバーコードに特殊な画像処理を適用します。バーコードイメージ強調は、ISIS ドライバーで有効化されたバーコード読み取りには適用できません。コダックアラリスが提供するバーコード読み取り機能は、画像処理中、高解像度グレースケールデータを使用して実行されるからです。
- **［パンチ穴除去］**— 原稿の端の周囲にある穴を埋めることができます。埋められる穴のタイプは、円、長方形、および不定形（例、二重穴が開いている、またはバインダーから文書を取り外した際に発生した可能性がある多少の裂け目がある）。

  注：写真をスキャンする場合は**パンチ穴除去**を有効化しないでください。

- **［境界線を追加］**— イメージの上下左右に、外枠を追加します。
- **［ハーフトーン除去］**— ハーフトーンスクリーンを使って、点描画の文字やイメージ、濃淡のある背景やカラーの背景を持つイメージの質を高め、ハーフトーンスクリーンにより発生したノイズを効果的に除去します。
- **［イメージ反転］**— 黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションを有効にします。

注：ご使用のアプリケーションがイメージデータの解析／処理を誤り、希望とは異なるイメージが保存される場合は、このオプションで対応できます。

- **［傾き補正］**— 原稿の先端の +/-0.3 度以内の傾きが自動的に補正されます。自動傾き補正では、最大 45 度までの傾きを検出し、200 dpi で 24 度まで、300 dpi で 10 度まで補正できます。

  注：データの損失を防ぐために、原稿の四隅が搬送路の中に収まっていることを確認してください。

ドキュメントタイプ

- **テキスト**：原稿の大部分が文字の場合に選択します。
- **文字と図形**：文章、グラフィック（棒グラフ、円グラフなど）、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **文字と写真**：文字と写真が混在している原稿の場合に選択します。
- **写真**：主に写真で構成された原稿の場合に選択します。

原稿のタイプ—スキャンする用紙の素材や重量に基づいてタイプを選択します。オプションは、**普通紙、薄紙、光沢紙、カードストック**、**雑誌**です。

［JPEG (Joint Photographic Editor Group) **品質］**— JPEG 圧縮を選択した場合、いずれかの品質オプションを選択します。

- **ドラフト**：圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
- **標準**：標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
- **高**：一部圧縮され、良い品質のイメージが生成されます。
- **最高**：小さい圧縮率で良い品質のイメージが生成されます。
- **高品質**：最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。

ノイズフィルタ

- **なし**
- **Lone Pixel**（孤立点除去）：白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
- **マジョリティルール**：各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺のピクセルの大部分が白の場合白になり、黒の場合は黒になります。
- **背景**：イメージの背景エリア（例：非テキストエリア）を確認して分析し、画素にばらつきのあるランダムノイズを軽減します。

テキスト向上 — 文字が見やすくなるようにスキャナーを設定できます。原稿がほとんど文字で、文字がつながっていない、またはスムーズではない場合にこのオプションをオンにします。このオプションは、ドットマトリックス印刷の読みやすさを向上し、フォントサイズや解像度が十分大きい/高ければ､質の悪い文字を改善することもできます。

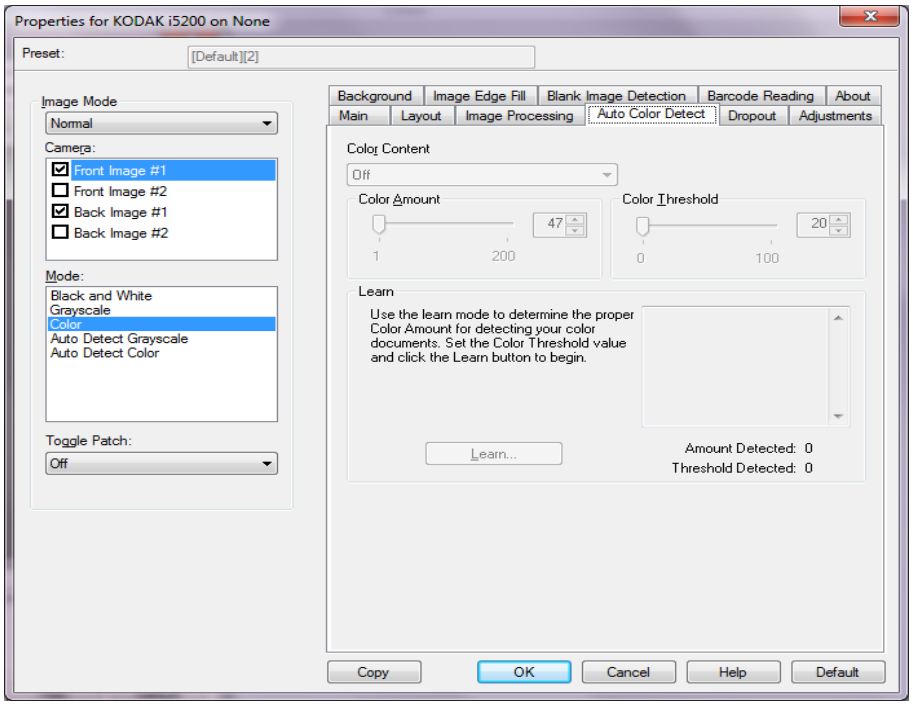
注：

- **細線化 / 濃化**を使用していると､このオプションが小さいフォントには反映されない、または効果が落ちる場合があります。
- フォントサイズが小さすぎる、または解像度が高くない場合にこのオプションを使うと、文字の穴埋めが発生する可能性があります。

細線化 / 濃化 — ラインと文字を細線化または濃化します。この設定値を小さくすると､ラインと文字が細く / 小さくなります。この設定値を大きくすると、ラインと文字が太く / 大きくなります。デフォルト値は 0 で、細線化または濃化はオフです。

［カラーの自動検知］タブ

［カラーの自動検知］タブには、以下のオプションがあります。



カラー設定

- **［オフ］**：デフォルト設定です。カラーの検知をしません。
- **低**：カラー / グレースケールイメージとして保存するときに、スキャンする書類の色の量が少ない場合に選択します。黒い文字と小さなロゴが主体の原稿や、ハイライトされた文字や写真の色が少ない原稿をスキャンする場合に適します。
- **中**：カラー / グレースケールイメージとして保存する場合に、［低］オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。
- **高**：カラー / グレースケールイメージとして保存する場合に、［中］オプションよりも、色の割合が多い場合に選択します。中～大サイズのカラー写真などを多用している原稿に適します。中間色の割合が大きい写真を正しくスキャンするには、色量やカラーしきい値の調整が必要になる場合があります。
- **カスタム**：マニュアルで**［色量］**や**［カラーしきい値］**の値を調整することができます。

  注：［カラーの自動検知］の値を設定した場合は、まず**［中］**オプションを選択してから、通常のスキャン作業でテストしてみることをお勧めします。白黒と比較して原稿の大半がカラー / グレースケールとして返された場合は、**［高］**に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。白黒と比較してカラー / グレースケールとして返された原稿が少なすぎる場合は、**［低］**に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。以上のオプションで満足のいく結果が得られなかった場合は、**［カスタム］**オプションを選択して色量やカラースレッショルドを調整してください。

[色量]：スキャンイメージをカラー / グレースケールで保存する際に必要な原稿上の色の量です。色量の値を増やすと、必要となるカラーピクセルの量も増加します。有効値は 1 ～ 200 です。

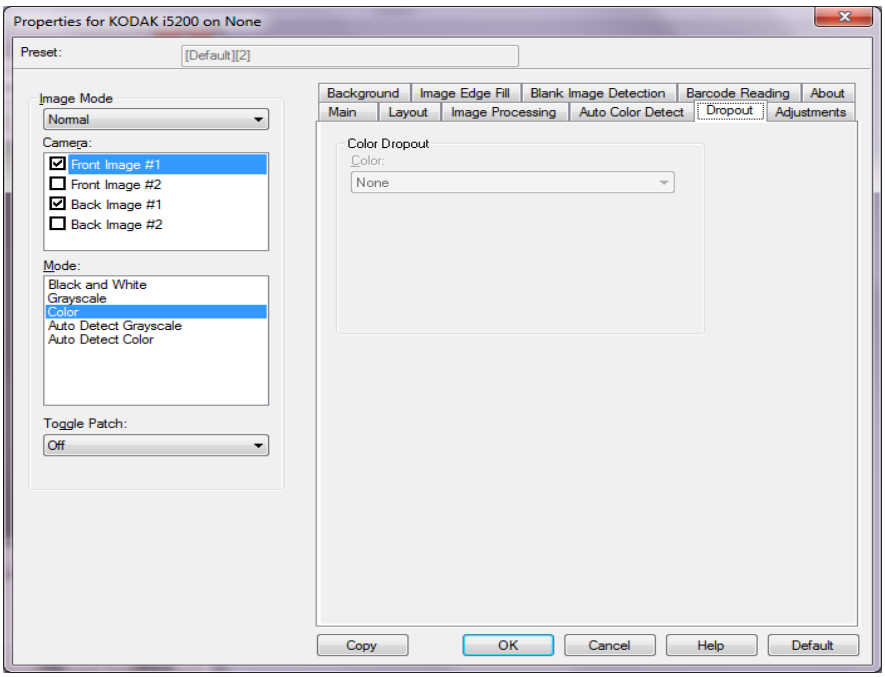
カラーしきい値：色量の算出時に、色として識別させるためのカラーしきい値や彩度の割合（青と紺色の対比など）です。値を増やすと、必要となる彩度が高くなります。有効値は 0 ～ 100 です。

自動設定：スキャンしたサンプルのカラー原稿に基づいて設定値を算出します。**[自動設定]** を選択する前に、入力エレベータに 5 枚以上のカラー原稿をセットしてください。これらの原稿をスキャンし、分析することで推奨される［色量］が決定します。

注：計算に応じて **[色量]** と **[カラースレッショルド]** のスライダが自動的に調整されます。算出された値を使っても期待通りの結果にならない場合は、**[カラースレッショルド]** の値をマニュアルで調整してください。

[ドロップアウト] タブ

［ドロップアウト］タブには、以下のオプションがあります。



[カラードロップアウト] — フォームの背景を消去するために使用します。背景が消去されると入力されたデータのみがイメージとして保存されます（フォームの線とボックスを削除など）。白黒イメージの場合、スキャナーがイメージの生成のために解析するグレースケールイメージは、設定に影響を受けます。

- **[カラー]**：ドロップアウトする色を選択します。
  - **なし**
  - **マルチ**：濃い色合い（黒や濃紺インクなど）以外のドロップカラー。この機能はスキャンした各イメージのカラー分析を行い、最大 5 色までドロップアウトします。1600 万色以上に対応しています。*[強度]* スライダを使用して、カラーを調整します。スキャン原稿毎に解析するという点でユニークな機能です。ドロップアウトする色を選択する必要はありません。**[マルチ]** はグレースケール出力で使用できます。
  - **主色**：主色をドロップアウトします。様々な色がドロップアウトされるため、フォームがすべて同じ色の場合でも、このオプションを使用します。またこのオプションは、単一のバッチで形式を混在させることができるので、それぞれが 1 つの形式の色をもつ複数の形式である場合に最適です。
  - **赤**：赤色をドロップアウトします。
  - **緑**：緑色をドロップアウトします。
  - **青**：青色をドロップアウトします。
  - **オレンジ色**
  - **オレンジと赤色**

- **強度**：ドロップアウトする色の程度を調整することができます。値の範囲は、**[-10]** から **[10]** です。デフォルト値は 0 です。*このオプションは、[カラー] が **[マルチ]** または **[主色]** に設定されている場合に使用できます。*

注：

- すべての [カラードロップアウト] オプションは、*[モード]* で **[白黒]** が選択されている場合に使用できます。
- グレースケールスキャンでは、**[赤]**、**[緑]**、**[青]**、**[オレンジ]**、**[オレンジと赤色]** が使用できます。
- カラースキャンではカラードロップアウトは使用できません。

以下の赤、緑、青の Pantone 値は、ドロップアウト結果が良好になります。

この値は、標準の Pantone Matching System® Colors ガイド（コーティングなし、175 本 / 画面）を使用して確立しています。使用しているドキュメントの背景が明るい白でない場合は、異なる結果になることがあります。iThresholding を推奨します。iThresholding でカラードロップアウトの処理結果に満足が得られない場合は、ATP 変換の品質設定によりバイナリゼイションをさらに制御することができます。

以下の表に、赤、緑、青のドロップアウトオプションで使用できる色のリストを示します。

赤のドロップアウト

144U	150U	151U	1485U	1495U	1505U	オレンジ 021 U	156U
157U	158U	1555U	1565U	1575U	1585U	162U	163U
164U	165U	1625U	1635U	1645U	1655U	169U	170U
171U	172U	176U	177U	178U	ウォームレッド U	179U	1765U
1775U	1785U	1788U	1767U	1777U	1787U	赤 032U	182U
183U	184U	185U	186U	189U	190U	191U	192U
1895U	1905U	1915U	1925U	196U	197U	198U	199U
200U	203U	204U	205U	206U	210U	211U	212U
213U	217U	218U	219U	ルビン赤 U	223U	224U	225U
226U	230U	231U	232U	ローダミン赤 U	236U	237U	238U
239U	240U	2365U	2375U	2385U	2395U	2405U	243U
244U	245U	246U	247U	250U	251U	252U	紫 U
253U	256U	257U	2562U	2572U	2582U	2563U	2573U
2567U	263U	264U	2635U	2645U	236U	2365U	2375U
243U	244U	245U	250U	251U	256U	257U	2562U
2572U	2582U	2563U	2567U	263U	264U	2635U	2645U
1375U							

緑のドロップアウト

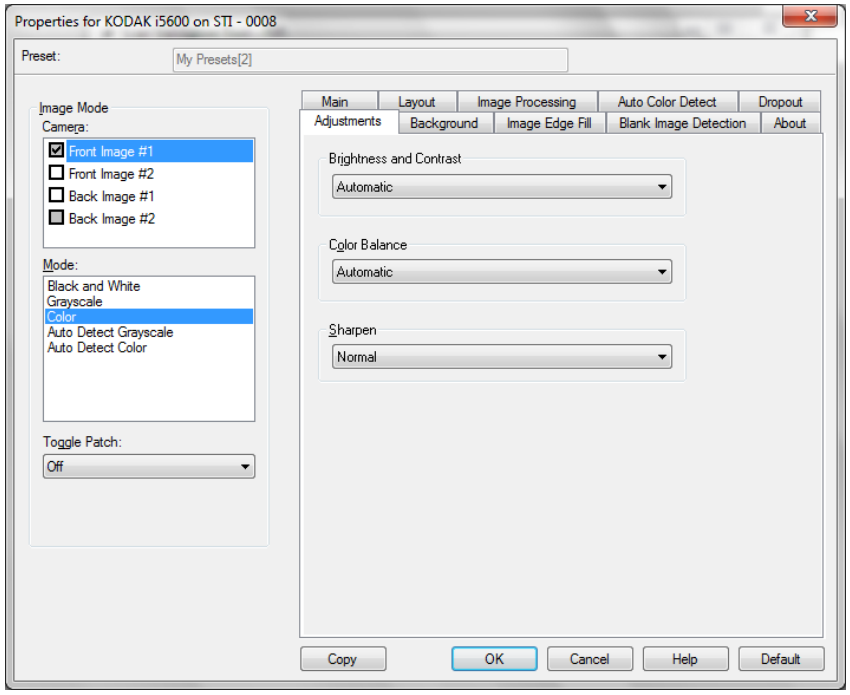
106U	107U	108U	109U	113U	114U	115U	120U
121U	122U	1205U	1215U	127U	134U	135U	1345U
148U	317U	3245U	331U	332U	333U	337U	3375U
3385U	3395U	344U	345U	351U	352U	353U	358U
359U	360U	365U	366U	367U	368U	372U	373U
374U	375U	376U	379U	380U	381U	382U	386U
387U	388U	389U	390U	393U	394U	395U	396U
397U	3935U	3945U	3955U	3965U	317U	3294U	

青のドロップアウト

317U	3245U	236U	2365U	2375U	243U	244U	245U
250U	251U	256U	257U	2562U	2572U	2582U	2563U
2567U	263U	264U	2635U	2645U	236U	2365U	2375U
243U	244U	245U	250U	251U	256U	257U	2562U
2572U	2582U	2563U	2567U	263U	264U	265U	266U
2635U	2645U	2655U	270U	271U	272U	2705U	2715U
2725U	2706U	2716U	2726U	2707U	2717U	2727U	2708U
2718U	2728U	277U	278U	279U	283U	284U	285U
290U	291U	292U	293U	2905U	2915U	2925U	2935U
297U	298U	299U	300U	2975U	2985U	2995U	3005U
304U	305U	306U	プロセス ブルー U	310U	311U	312U	313U
3105U	3115U	3125U	317U	318U	319U	324U	3242U
3252U	3245U						

［調整］タブ

［調整］タブには、以下のオプションがあります。



明度とコントラスト

- **なし**
- **自動**：各イメージを自動的に調整します。
- **手動**：すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
  - **明度** — カラー／グレースケールイメージの白レベルを調整します。値の範囲は、**[-50]** から **[50]** です。デフォルト値は 0 です。
  - **［コントラスト］** — イメージをシャープに、またはソフトにします。値の範囲は、**[-50]** から **[50]** です。デフォルト値は 0 です。

［カラーバランス］ — 利用できるオプションは次のとおりです。

- **（なし）**
- **手動**
- **自動**
- **自動 - 詳細**

[手動] を選択している場合は、スライダーバーを右または左に動かす、テキストボックスに値を入力する、または上下矢印を使用して **［赤］**、**[緑]**、**［青］** の値を調整できます。

- **[赤]** — カラーイメージの赤のレベルを調整します。
- **[緑]** — カラーイメージの緑のレベルを調整します。
- **[青]** — カラーイメージの青のレベルを調整します。

[自動] を選択すると、最高の画質にするため、スキャナーは原稿を分析します。

[自動 - 詳細] は、このオプションの詳細を調整したい場合に使用します。*[強度]* スライダーバーを使用して、カラーバランスの強弱を調整します。値の範囲は、**[-2]** から **[2]** です。

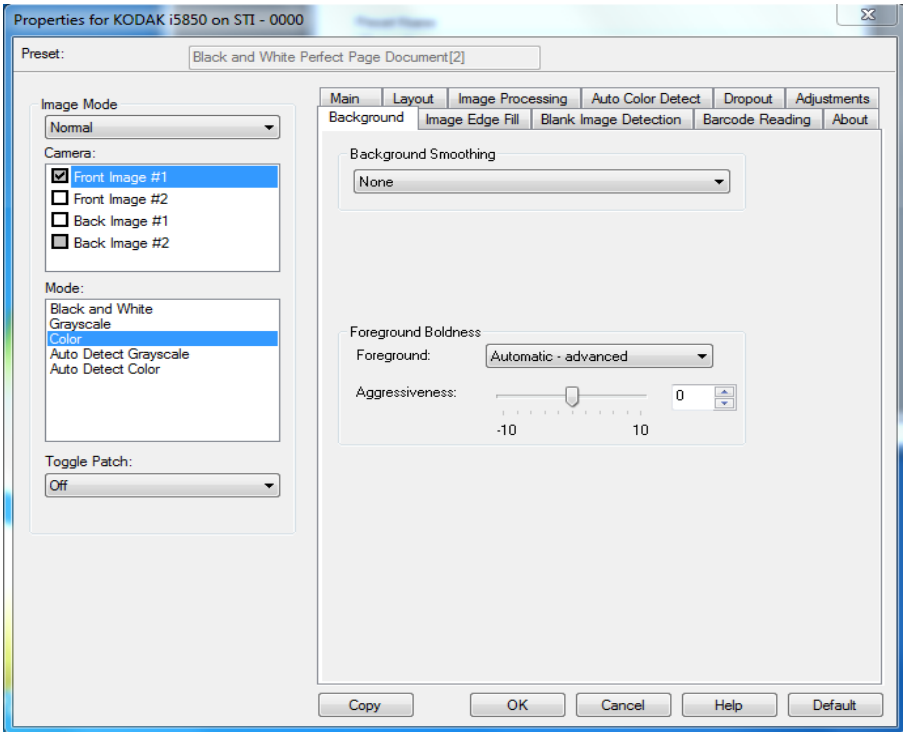
シャープネス — イメージ内の境界線のコントラストを増やします。

- **なし**
- **標準**
- **高**
- **最高**

縦縞フィルタ — イメージから縦縞をフィルタするようにスキャナーを設定できます。縦縞とは、元の原稿には存在しないにもかかわらず、イメージに現れることがある線のことです。縦縞は、ドキュメント上の汚染物質（例、泥、塵、または擦り切れた端）が原因で発生するか、スキャナーの推奨される清掃手順に従わないために発生する場合があります。スライドバーを -2 から 2 動かし、縦縞がフィルタされる範囲を調整します。デフォルトは「0」です。

［背景］タブ

［背景］タブでは以下のオプションが提供されます。



注：［背景］タブのオプションは、白黒モードに使用できます。

背景のスムージング — 背景色のある原稿やフォームをスキャンする場合にこのオプションを使用すると、背景色を均一にします。このオプションを利用すると、イメージ品質を向上し、ファイルサイズを軽減できます。
注：背景のスムージングの写真への使用はお勧めしません。



実行前 **実行後**

- **なし**
- **自動**：背景色を 3 色までスムージングします。
- **自動 - 詳細自動**：オプションの詳細を設定したい場合に使用します。
  - **強度** - スムージングの強弱を決定できます。値の範囲は、**[-10]** から［**10**］です。

前景のボールド化 — ドキュメントやフォームの前景（テキスト、行など）をさらに目立つようにする場合、このオプションを使用します。**前景のボールド化**を有効にすると、グレーや中間色が濃くなります。
注：前景のボールド化の写真への使用はお勧めしません。

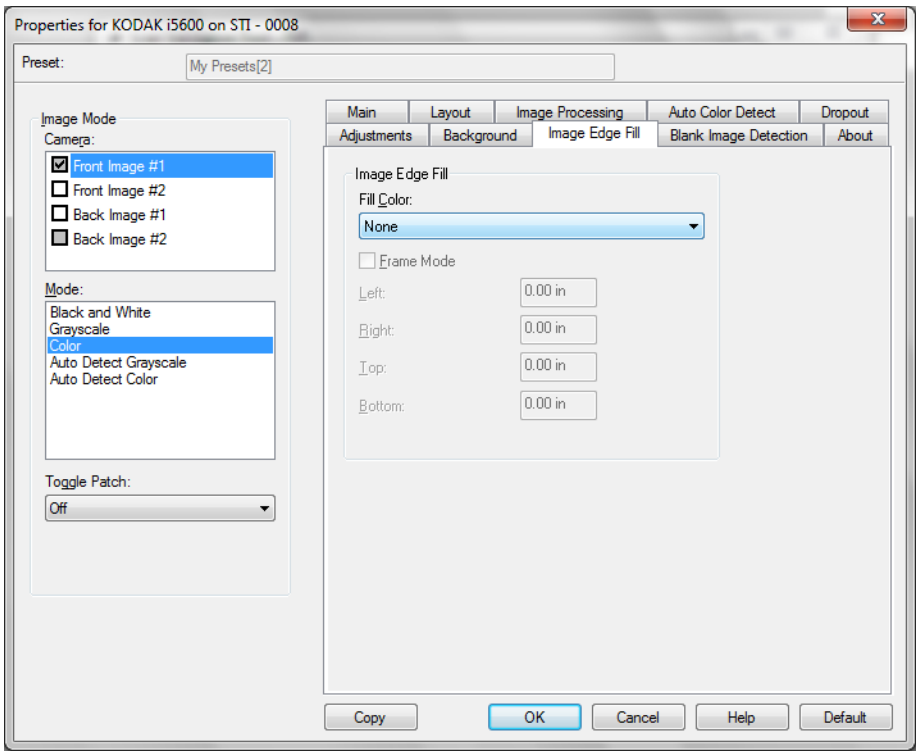


実行前 **実行後**

- **なし**
- **自動**：文字や線がすべて太くなります。
- **自動 - 詳細**：自動オプションの詳細を設定したい場合に使用します。
  - **強度** - 強弱を調整して前景を調整します。値の範囲は、**[-10]** から［**10**］です。

［イメージの端を埋める］タブ

［イメージの端を埋める］タブには、以下のオプションがあります。



イメージ端埋め — 最終的に出力される電子イメージの端の領域を、選択された色で埋めます。

- **［色埋め］**：
  - **なし**
  - **自動**：イメージの端が周囲の色で自動で埋められます
  - **自動 - 破れを含める**：イメージ端埋めに加え、イメージの端の破れも補完されます
  - **白**
  - **黒**

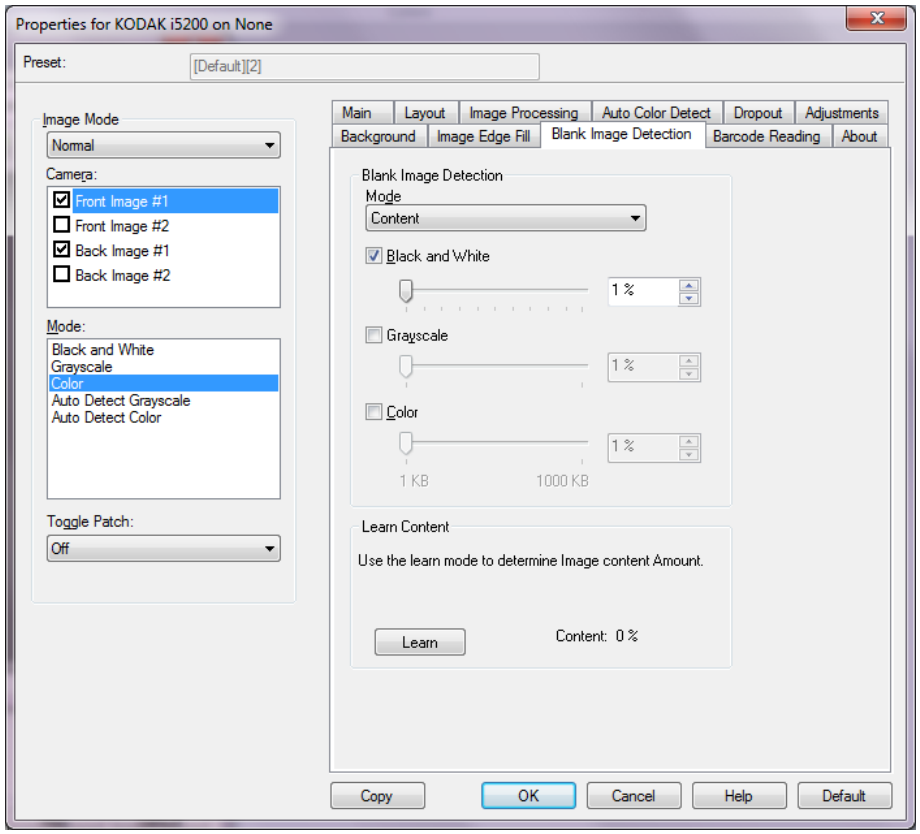
フレームモード — **黒**または**白**を選択する際、処理対象のフレームのサイズを入力できます。*［埋める色］*ドロップダウンリストで選択した色とサイズでイメージの 4 辺が等しく埋められます。

フレームモードが選択されていない場合、スキャンしたイメージの 4 辺から **［左］**、**［右］**、**［上］**、**［下］**領域の値を選択でき、選択に応じて黒または白で埋められます。

注：このオプションを使用するときは、大きな値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。

［白紙イメージ検出］タブ

［ブランクイメージ検出］タブには、以下のオプションがあります。



ブランクイメージ検出 —スキャンアプリケーションに白紙のイメージが取り込まれないように設定できます。イメージが白紙と判断されるイメージのサイズ (KB) を指定します。設定値未満のサイズのイメージは作成されません。このオプションを使用する場合は、削除するイメージの種類（**白黒**、グレースケール、カラー）ごとに白紙と判断されるイメージサイズを指定する必要があります。各フィールドに値を入力しない場合は、すべてのイメージが保持されます。

- **［オフ］**：すべてのイメージがスキャンアプリケーションに送信されます。
- **サイズ**：スキャンアプリケーションに送信されたイメージのサイズに基づいて、白紙であるかどうか判断されます（他のすべての設定が適用された後）。

- **内容**：イメージ内の原稿内容に基づきイメージが白紙であるかどうか判断されます。**白黒**、**グレースケール**、**カラー**を選択し、スキャナーが白紙と判断する最大の内容量を選択します。情報量がこの値以上のイメージは白紙でないと判断され、スキャンアプリケーションへ送信されます。値の範囲は、**[0]**から**[100]**です。

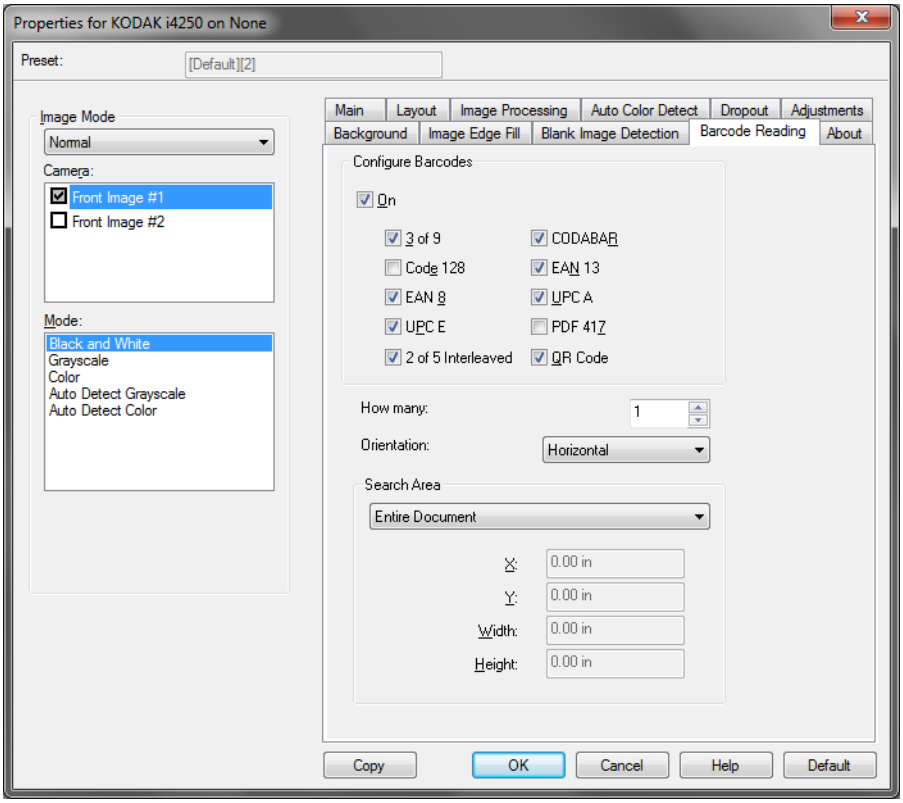
  注：コンテンツによる白紙イメージ検出は、スキャナーファームウェア 3.12.1（およびそれ以降）で改善されており、テキストがほとんどないページでも、より優れた検出が可能です。改善された機能では、ページあたり数文字だけでもその差が断定できます。この機能は感度が高いため、削除されつつあるイメージを見つけて削除されないようにする場合、比率コンテンツの値を増加させる必要がある場合があります。たとえば、5% の設定は、改善された機能では 12 ～ 13% と等しくなるでしょう。

自動設定 — スキャンされる原稿にもとづいてスキャナーが内容量を判断します。この機能を使用する場合は、**[自動設定]**をクリックします。

注：自動設定モードは表面と裏面を同時に適用できません。適用する読取り面を選択してください。

[バーコード読み取り] タブ

[バーコード読取り] タブは、バーコードのイメージを検索して情報をスキャンアプリケーションに戻すようにスキャナーを設定します。



バーコードの設定

- **[オン]**：バーコード読取りをオンにします。[**オン**] を選択すると、すべてのバーコードの種類が選択されます。スキャナーによる検索から除外したいバーコードの種類は選択を解除してください。
  - 3 of 9
  - Code 128
  - EAN 8
  - UPC-E
  - 2 / 5 インターリーブ
  - CODABAR
  - EAN 13
  - UPC-A
  - PDF 417
  - QR コード
- **数**：検索するバーコードの数を選択します。
- **方向**：検索するバーコードの方向を選択します。選択内容は以下のとおりです。**横向き**、**縦向き**、または**両方**。

  注：これは最終イメージに影響します（クロッピングおよび回転の適用後）。

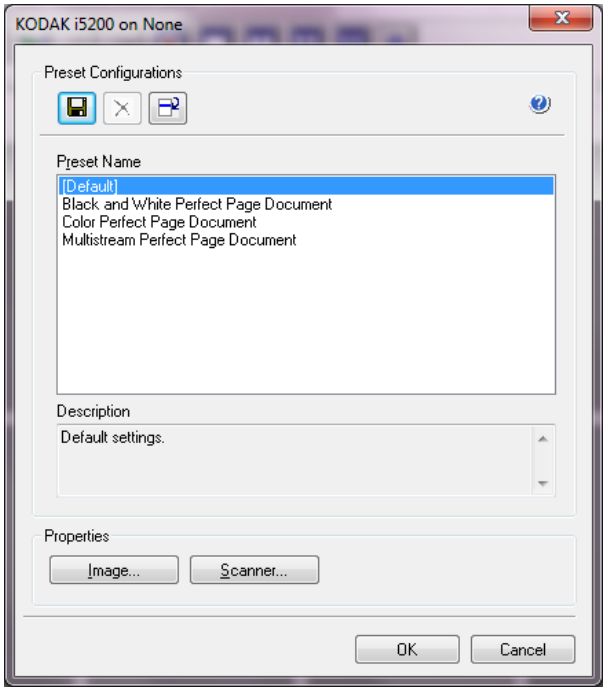
- **検索エリア**：イメージを検索する範囲を選択します。
  - **ドキュメント全体**
  - **原稿の一部**：選択すると、以下のフィールドに入力できます。
    - **X** は画像の左端からの距離です。
    - **Y** は画像の上端からの距離です。
    - **幅と高さ**：検索エリアの幅と高さを設定します。

    注：

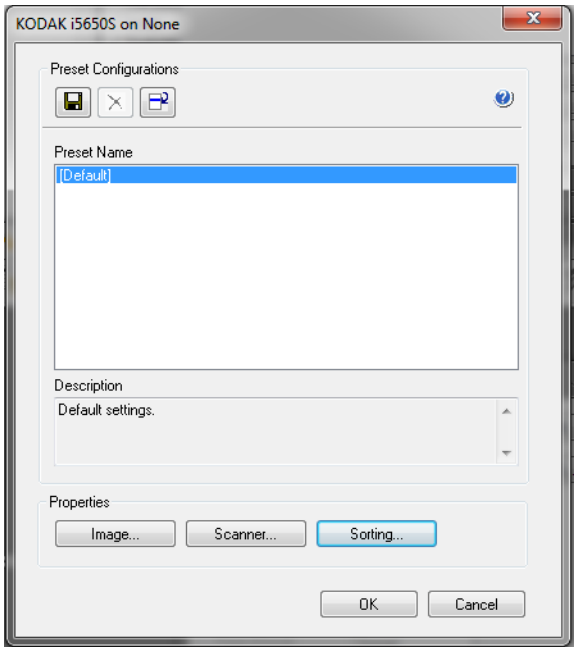
    - これらは最終イメージに影響します（クロッピングおよび回転の適用後）。
    - **［ドキュメントの一部］**が選択されている場合は、*左上*から*右下*のバーコード読取り規則が選択した対象領域に適用されます。
    - **イメージ結合**を選択すると、前面イメージのバーコード設定が結合された表面と裏面のイメージに適用されます。

スキャナー設定の実行

ISIS ドライバからスキャナー設定を開くには、Scan Validation Tool を前述の手順で開き、ISIS ドライバにアクセスします。



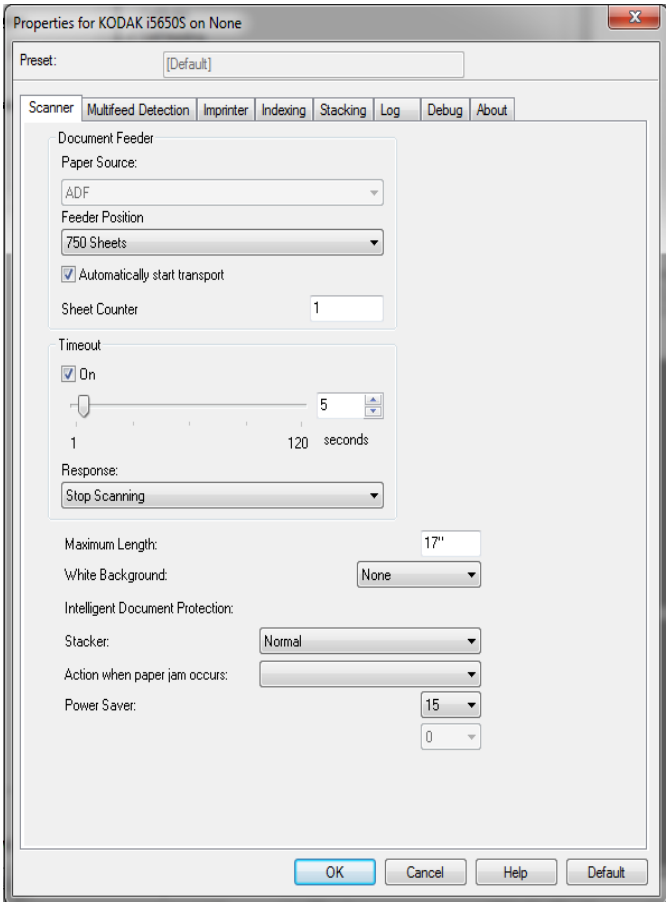
お使いのスキャナーが i5650S または i5850S の場合は、ISIS ドライバにソート用のボタンがあります。



- **[スキャナー]** をクリックすると、スキャナーのデバイス設定ができます。以降の章ではスキャナー設定の詳細や手順について説明します。イメージ設定の手順については、「イメージ設定の実行」を参照してください。
- ソートをクリックしてスキャナーのソートオプションを設定します。詳細については、本ガイドに後述の「ソート設定の実行」を参照ください。

［スキャナー］タブ

［スキャナ］タブには、以下のオプションがあります。



ドキュメントフィーダ

給紙方法 — **自動ドキュメントフィーダ** (ADF) すべての原稿は入力エレベータからスキャンされます。

注：**［自動］**および**［フラットベッド］**オプションは、スキャンアプリケーションがスキャナーに接続され、フラットベッドアクセサリが取り付けられている場合のみ利用できます。

フィーダの位置 — 以下から入力エレベータ位置を選択します。

- **自動**：最初にドキュメントフィーダに書類があるか確認します。入力エレベータに原稿がない場合、スキャナーはフラットベッドからスキャンします。
- **自動 - 100 枚**：まず、入力エレベータに用紙があるかどうか確認し、入力エレベータにドキュメントがない場合、スキャナーがフラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 25 ～ 100 枚の用紙をスキャンする場合に推奨されます。
- **自動 - 250 枚**：まず、入力エレベータに用紙があるかどうか確認し、入力エレベータにドキュメントがない場合、スキャナーがフラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 100 ～ 250 枚の用紙をスキャンする場合に推奨されます。

- **自動 - 500 枚**：まず、入力エレベータに用紙があるかどうか確認し、入力エレベータにドキュメントがない場合、スキャナーがフラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 250 ～ 500 枚の用紙をスキャンする場合に推奨されます。
- **自動 - 750 枚**：まず、入力エレベータに用紙があるかどうか確認し、入力エレベータにドキュメントがない場合、スキャナーがフラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 500 ～ 750 枚の用紙をスキャンする場合に推奨されます。
- **標準**：入力エレベータは一番高い位置にあります。このオプションは、入力エレベータから 25 枚以内の用紙をスキャンしている場合に推奨されます。
- **100 枚**: 入力エレベータから 25 ～ 100 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **250 枚**：入力エレベータから 100 ～ 250 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **500 枚**：入力エレベータから 250 ～ 500 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **750 枚**：入力エレベータから 500 ～ 750 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **フラットベッド**：スキャナーはフラットベッドからスキャンします。

自動的に転送を開始 — このオプションが選択されると、スキャナーは書類が入力エレベータにセットされるまで最長 10秒待機します。また、入力エレベータが空になった場合、用紙が入力エレベータにセットされるとスキャナーは自動的にスキャンを再開します。スキャナーはドキュメントフィーダタイムアウトにより指定された時間待機します。

用紙枚数カウンタ —スキャナーに入る次の原稿に割り当てられる番号を入力します。これは、スキャナーで順次カウントされ、イメージヘッダに送られます。

タイムアウト — 最後の原稿が取り込まれてからトランスポートタイムアウトが実行されるまでの時間を設定します。遅延時間設定を **1** ～ **120** 秒の間で指定します。

レスポンス — ドキュメントフィーダがタイムアウトになったときに実行するアクションを指定します。

- **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（例：ジョブを終了）。
- **スキャン一時停止**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（例：フィーダを停止）。オペレータコントロールパネルの［**開始 / 一時停止**］ボタンを押すと、スキャンが再開します。オペレータ — コントロールパネルの［**停止**］ボタンを押すか、スキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。

- **スキャンの一時停止 - 用紙待ち**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（例：フィーダを停止）。原稿が入力エレベータに追加されると、スキャンが自動的に再開されます。

最長原稿サイズ — 原稿のセット内で最長の原稿サイズを設定します。

注：

- 長尺ドキュメントはすべての設定の組み合わせをサポートしません（解像度、カラー、グレースケールなど）。柔軟に対応できるように、長さを超えた原稿が確認されるまでエラーを生成しません。
- 長尺ドキュメントの場合には、スキャナーの処理能力が減少することがあります。
- この値より長い原稿をスキャンすると、搬送部が停止し（スキャナー内に原稿が残ったまま）、紙詰まりのメッセージが表示されます。
- 最長原稿サイズは常に 2.5 ～ 160 インチ (6.35 cm ～ 457.20 cm) ですが、スキャンの最大長はビット深度（カラー / グレースケール / 白黒、およびスキャン解像度）によって異なります。白黒の 200 dpi は 160 インチ (457.20 cm) ですが、カラーの 600 dpi はかなり短くなります。ユーザが選択した最大長に達する前にスキャナーの処理能力を越えた場合、スキャナーのオペレータコントロールパネルに紙詰まりと表示され、ホストアプリケーションにイメージは送信されません。
- サイズが混合した大量の原稿をスキャンし、一部の原稿が非常に長い場合、最適なオプションとしてスキャナーのオペレータコントロールパネルで*最大長の許可*優先処理または*最大長検知*バッチ優先処理オプションのどちらかを使用して長い原稿のスキャンを有効にする場合を選択できます。
- **管理デュアルスタッキング**が有効な場合、デフォルト設定は 10 インチ/254 mmの最長原稿サイズに制限されます。詳細については、『ユーザーズガイド』の第 5 章「長さ保護の有効化」参照してください。

[ホワイトバックグラウンド] — 原稿の一部が欠けている場合、その部分の背景を黒の代わりに白で表示します。

- **なし**：表面と裏面に黒バックグラウンドを使用します。
- **両面**：表面と裏面にホワイトバックグラウンドを使用します。

以下は、ホワイトバックグラウンドが役立つ場合の例です。

- 長方形以外のドキュメントをスキャンするときに、最終イメージでは、ドキュメントの外側のエリアを黒ではなく白にする必要がある場合。
- 片面印刷で軽量または薄い紙をスキャンするときに、ドキュメントにブラックバックグラウンドがにじんで最終イメージに表示されないようにする必要がある場合。

注：i5850 スキャナーを使用している場合、利用できるオプションは［**両面**］のみです。

インテリジェントドキュメントプロテクション — スキャナーに正しく入っていない原稿を、スキャナーがどの程度積極的に検出するかを選択できます。これは、スキャンする際に、原稿の準備がきちんと整っていない場合に発生します（ホチキス止めやクリップされたままの原稿など）。

- **なし**
- **標準**：これは推奨するオプションであり、ドキュメントの損傷を最小限にし、スキャナーを必要以上に停止させないことの双方でバランスを取ります。
- **最小**：給紙不良を必要以上に検出することでスキャナー停止の頻度が多い場合、このオプションを選択します。

  注：検出しないと、原稿はさらに損傷する場合があります。
- **最大**：極力原稿の損傷を防ぐ場合、このオプションを選択します。

  注：スキャナーが必要以上に停止してしまう場合があります。

スタッカ — 原稿の搬送方法を選択できます。これにより、原稿がスキャナーにフィードされる方法、スキャナー内で送られる速度、出力トレイに排出される方法に影響します。

注：管理デュアルスタッキングが有効な場合、[スタッカー] には、**[サイズ混在 : ベスト]** 未満のスループットを用いたカスタムレベルが自動的に設定されます。

- **標準**：追加の処理は行われません。すべての原稿のサイズが同様である場合に最適です。
  - 最高の処理速度
  - 排紙コントロール**無効**状態
  - 原稿間のギャップが小さい
- **サイズ混在**：サイズが混在するドキュメントセット用の出力トレイで、ドキュメントを積み重ねる／並べる方法を制御するのに役立ちます。これは、大多数のサイズ混在原稿セットに使用できます。
  - 処理速度が若干低下
  - 排紙コントロール**有効**状態
  - 原稿間のギャップが小さい
- **サイズ混在**：**ベスト**：原稿のサイズに幅がある場合、このオプションにより、出力トレイ内でドキュメントを積み重ねる／並べるための最適な制御が提供されます。
  - 処理能力が若干低下
  - 排紙コントロール**有効**状態
  - 原稿間のギャップが大きい
- **薄紙**：出力トレイに排紙される際に特別な配慮が必要な原稿の場合。
  - 処理速度が大幅に低下
  - 排紙コントロール**無効**状態
  - 原稿間のギャップが小さい
  - 搬送速度が 1/4 に低下

- **厚紙**：カードストックよりも厚い原稿用 (0.25 mm)。
  - 処理速度が大幅に低下
  - 排紙コントロール**有効**状態
  - 原稿間のギャップが小さい
  - 搬送速度が 1/4 に低下
- **薄紙**：20 ポンドのボンド紙よりも薄い原稿用（わら紙など）。
  - 処理速度が大幅に低下
  - 排紙コントロール**有効**状態
  - 原稿間のギャップが大きい
  - 搬送速度が 1/4 に低下

紙詰まりが発生した場合の動作 — スキャナーが紙詰まりを検出した場合に何をするか選択できます。

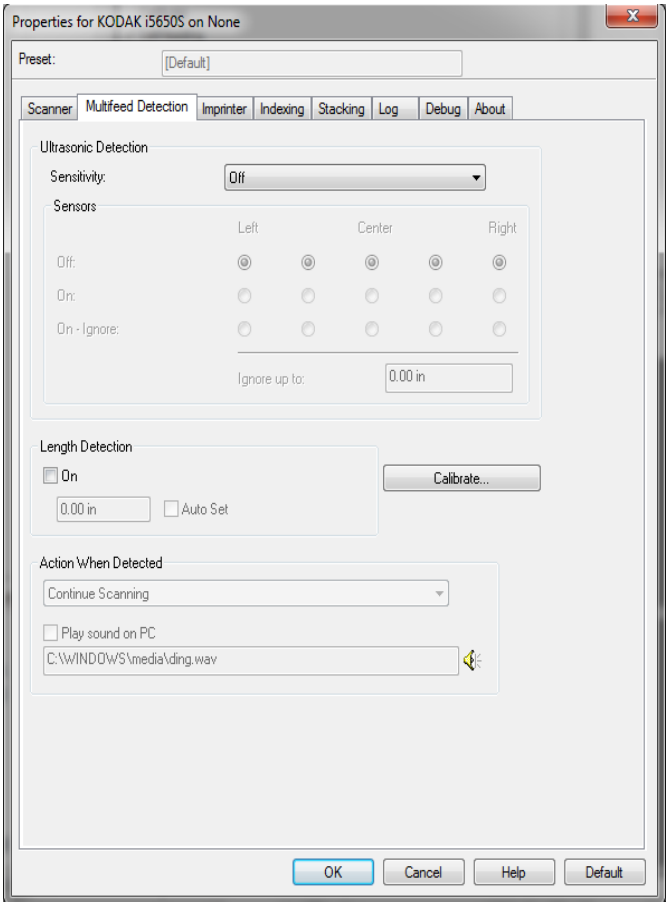
- **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送部に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャン一時停止**：紙詰まりリカバリオプションを自動化したい場合、[**スキャン一時停止**] を選択するとスキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（例：フィーダを停止）。このオプションにより紙詰まりからすぐにリカバリできるため、オペレータの効率を向上します。搬送路の原稿を取り除いたら、オペレータコントロールパネルの [**開始 / 一時停止**] ボタンを押すとスキャンが再開します。オペレータコントロールパネルの [**停止**] ボタンを押すか、またはスキャンアプリケーションからスキャンを停止できます。

節電モード — スキャナーが操作されていないときにアイドル状態に移行するまでの時間（**1** ～ **240** 分）を設定できます。デフォルトは 15 分です。

電源オフ — 自動的に電源が切れるまで、スキャナーを節電モードにしておく時間（分）を設定できます。

［重送検知］タブ

重送検知機能は、原稿が重なった状態で給紙された時点で重送を検知します。重層検知はホッチキスで綴じられた原稿、原稿への粘着物、または静電気を帯びている原稿が原因で生じます。［重層検知］タブには、以下のオプションがあります。



超音波検知機能 — 重送検知機能を設定する場合に、このオプションを選択します。

- **感度** — 搬送路に複数の原稿が重なった状態で送られたかどうかを、検知レベルを指定します。重送は、原稿とのすきまを検出することにより、識別されます。そのため、厚さの異なる原稿が混在しているような場合でも、重送を検知することができます。
  - **オフ**
  - **低**：レベルが低い設定で、ラベルが貼られた原稿、紙質の悪い原稿、皺がある原稿を重送として認識する可能性が最も低くなります。
  - **中**：厚さが異なる原稿や、ラベルを貼った原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にもよりますが、大部分のラベルは重送とは認識されません。
  - **高**：最もレベルが高い設定です。この設定は、すべての原稿が 75.2 g/m^2 のボンド紙である場合など、厚さが同じ原稿をスキャンする場合に適しています。

センサ — 5 つのセンサが搬送路の幅をカバーします。重送原稿が正しく検知されるためには、これらのセンサの下を通過しなければなりません。

- **左**から**右**：5 ヶ所から有効にするセンサを選択できます。たとえば、原稿の左側にメモが「貼付」されている場合、左のセンサをオフにできます。
- **最大無視数**：入力した値までの重送を無視します。このオプションは重送検知センサを完全に無効にすることなく重送を許可したい場合に便利です（例：3 インチ（約 7.6 cm）の付箋）。

  注：
  - このオプションを使用するには 1 つ以上のセンサを**有効 - 無視**に設定する必要があります。
  - **オン - 無視**に設定されているすべてのセンサに無視数が適用されます。

長さによる検知 — 有効にすると、重送検知されずにスキャンされる原稿の最大の長さを選択できます。同じサイズの原稿のスキャン時に重送を検出するために長さ検出を使用します。たとえば、A4（8.5 x 11 インチ）の原稿を縦でスキャンする場合は、*[最大長]* フィールドに 28.57 cm（11.25 インチ）と入力します。最大 35.56 cm までの値を指定できます。

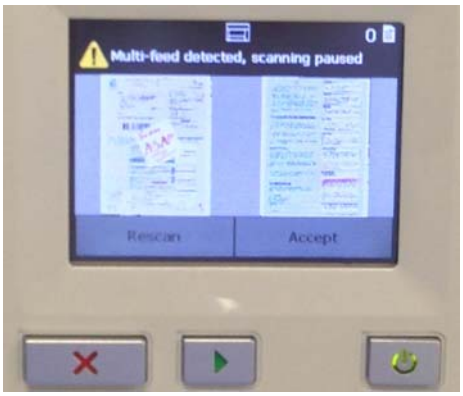
[自動設定] — チェックすると、現在選択されている用紙サイズより 0.50 インチ長い値を自動的に最大長を設定します。

検知時の動作 — 重送検知時のスキャナーの動作を選択します。オプションに関係なく、状態はスキャナーのログに記録されます。

- **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送原稿のイメージは生成されません。搬送部に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャン停止 - イメージ生成**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送書類のイメージが生成されます。搬送部に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャンの停止 - 用紙を搬送部に残す**：スキャンを直ちに停止し（搬送路はクリアされません）、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送原稿のイメージは生成されません。搬送路から原稿を取り除き、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャンの停止 - 用紙を排紙口に残す**：スキャンを停止し、重送原稿の最後の部分を排紙口に残し、コントロールをスキャンアプリケーションに戻します（ジョブを終了します）。重送原稿のイメージは生成されません。搬送路から原稿を取り除き、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャンの続行**：スキャナーがスキャンを継続します。重送書類のイメージが生成されます。

- **スキャン一時停止 - イメージ生成**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。重送書類のイメージが生成されます。オペレータコントロールパネルの［**開始 / 一時停止**］ボタンを押すと、スキャンが再開します。オペレータ — コントロールパネルの［**停止**］ボタンを押すか、スキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。

  このオプションを使用すれば、スキャンしたページのプレビューイメージを点検し、スキャンしたイメージの**承認**、またはそのページの**再スキャン**するかを選択して、重送アラームを作動させたスキャンのイメージを破棄することができます。スキャンしたイメージは承認されるまでホストアプリケーションには送信されません。このオプションにより、すべての重送イベントをスキャナーで処理できます。スキャンアプリケーションでイメージ操作は必要ありません。このオプションより、スキャナの前にいるだけで、無駄な動作を削減し、あまり疲れることはありません。**このオプションはスキャナが実行します。スキャンアプリケーションを変更する必要はありません。**

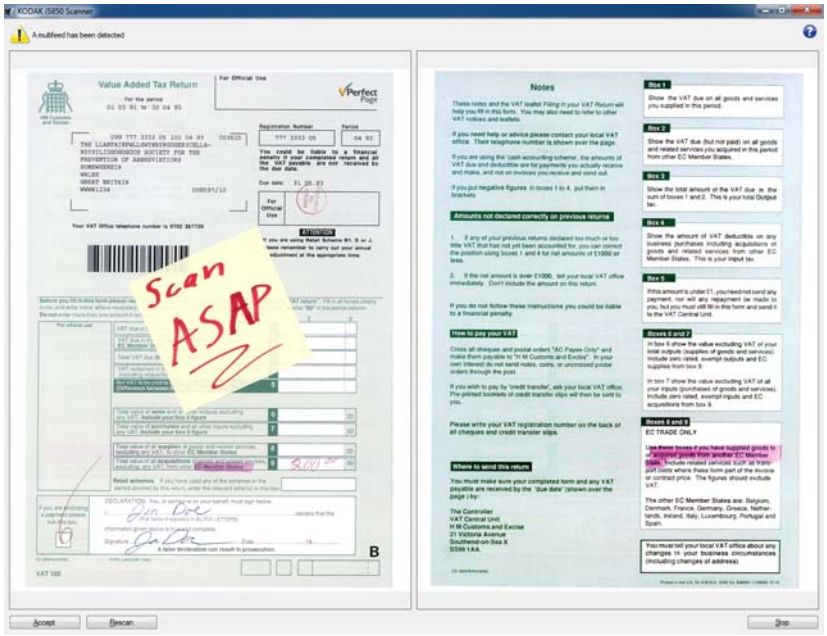
  

プレビューイメージは、ISIS ドライバで選択したイメージ処理設定（自動回転など）に応じて回転します。スキャンアプリケーションがイメージを回転している場合、またはその他のイメージ処理を実行している場合、プレビューイメージにはスキャンイメージ処理が適用されません。

- 両面（表面と裏面）スキャンの場合は、両方のイメージが表示されます。
- 白黒スキャンの場合は、白黒のイメージが表示されます。
- カラー／グレースケールスキャンの場合は、カラー／グレースケールのイメージが表示されます。
- デュアルストリームスキャンの場合は、カラー／グレースケールのイメージが表示されます。
- VRS ソフトウェアによる白黒スキャンの場合は、グレースケールのイメージが表示されます。
- **イメージの承認**：イメージを承認する場合は、オペレータコントロールパネルで［**承認**］を選択するか、スキャナーの［**開始 / 再開**］ボタンを押します。［**承認**］を選択すると、スキャナーのプレビューに表示されたイメージがすぐにスキャンアプリケーションに送信され、スキャンが続行されます。
- **ページの再スキャン**：ページの再スキャンが必要な場合は、出力トレイから一番上の原稿を取り除いて、入力エレベータに戻します（原稿の準備の問題は解決してください）。ページを再スキャンする準備が整ったら、オペレータコントロールパネルの［**再スキャン**］をタッチします。プレビューイメージは破棄されます。印刷が有効でない場合、スキャナーはすぐにスキャンを開始します。印刷が有効になっている場合、スキャナーには［停止］画面が表示され、スキャンされた次のページの［**印刷をスキップ**］が選択できます。その後、スキャナーの［**開始 / 再開**］ボタンを押して、スキャンを続行します。

- **スキャン一時停止 - 用紙を搬送部に残す**：スキャンがただちに停止します（搬送路をクリアしようとしません）が、スキャンアプリケーションは、追加のイメージを待機します（フィーダを停止します）。重送原稿のイメージは生成されません。スキャンセッションを開始する前に、搬送路からドキュメントをクリアします。スキャナーのオペレータコントロールパネルの［**開始 / 一時停止**］ボタンを押すと、スキャンが再開します。スキャナーのオペレータコントロールパネルの［**停止**］ボタンを押すか、スキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。
- **スキャンの一時停止 - 用紙を排紙口に残す**：スキャンは停止し重送原稿の最後の部分が搬送路出口に残りますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。重送原稿のイメージは生成されません。スキャンセッションを開始する前に、搬送路からドキュメントをクリアします。オペレータコントロールパネルの［**開始 / 一時停止**］ボタンを押すと、スキャンが再開します。オペレータ — コントロールパネルの［**停止**］ボタンを押すか、スキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。

- **インタラクティブマルチフィードリカバリ**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。重送原稿のイメージがコンピュータに表示されます。これらのイメージを承認または再スキャンして差し替えることもできます。コンピュータまたはスキャナーで選択することができます。イメージをアプリケーションに送信し、**[承認]** を選択してスキャンを再開します。**[再スキャン]** を選択するとイメージが破棄され、スキャンが再開します。**[停止]** を選択するとスキャンが停止します。



注：重送原稿を入力エレベータにセットしてから、**[再スキャン]** を選択します。

PC の音源を鳴らす — 重送検知時に PC から音を鳴らす場合、このオプションを選択します。

注：コンピュータの音源は、スキャナーの重送検知時と同時に鳴らない場合があります。

スピーカーアイコン — [開く] ダイアログボックスが表示され、アラーム用の警告音（.wav ファイル）を選択できます。

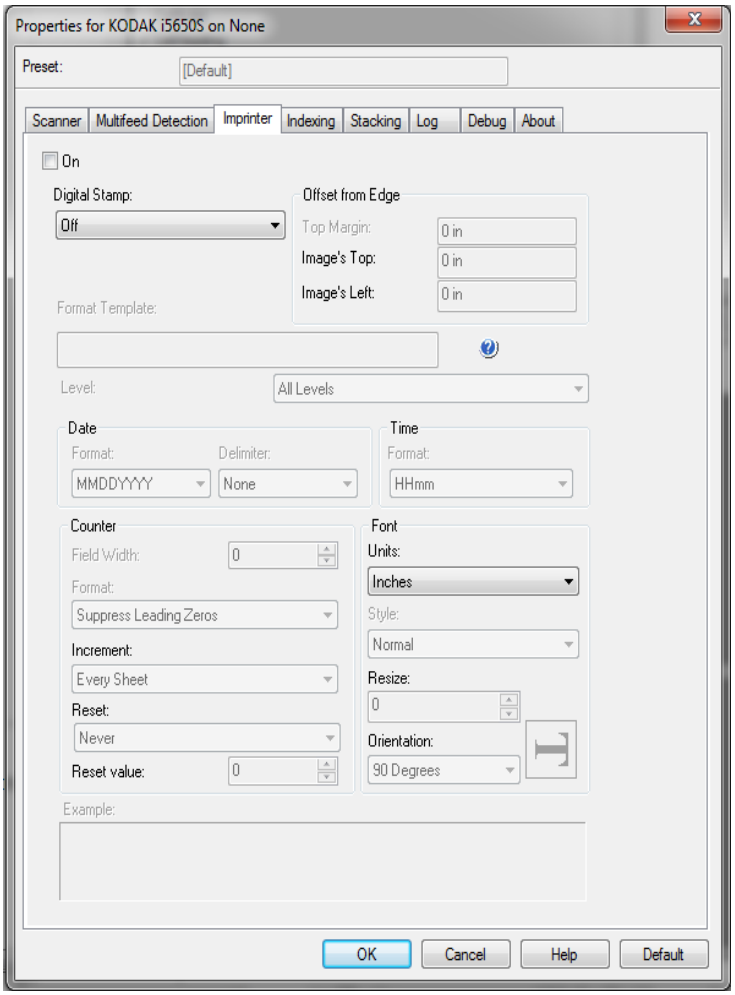
キャリブレーション — [キャリブレーション] ウィンドウを表示します。このウィンドウから **UDDS** キャリブレーションを実行できます。

注：キャリブレーションは頻繁に行う必要はなく、またお勧めもしません。サポート担当者の指示があった場合にのみキャリブレーションを実行します。

［インプリンタ］タブ

拡張プリンタは、スキャナーの最高速度で動作します。印刷時には、日付、時刻、ドキュメント順次カウンタ、およびカスタムメッセージを追加することができます。

リテラル（静的）情報（バッチ名、オペレータなど、どの原稿に対しても同じになる情報）とダイナミック（動的）情報（ドキュメント順次カウンタなど、スキャンするページごとに異なる情報）の両方を入れるように設定できます。リテラル（静的）フィールドはスキャンソフトウェアによって制御されます。ソフトウェアからユーザが入力できる情報をプリンタに送信できます。



ON — プリンタを使用する場合は、ここをクリックします。

注：スキャナーのオペレータコントロールパネルから印刷は優先処理される場合があります。

デジタルスタンプ — 物理用紙に対するデジタル印刷をオンにします。

- **モード**
  - **無効**
  - **表面** — すべての表面イメージに対するデジタル印刷をオンにします
  - **裏面** — すべての裏面イメージに対するデジタル印刷をオンにします
  - **両面**

注：

- デジタルスタンプは、クロッピングおよび回転***後***にイメージに適用されます。そのため、[**表面**] と [**裏面**] の両方が有効の場合、原稿の異なる端に印刷される場合があります。
- デジタルスタンプは、[**イメージ結合**] の前に適用されるため、[**裏面**] が有効の場合、結合されたイメージに 2 回デジタル印刷されます。

端からのオフセット — 値を選択して、印字された情報が端からどれくらい離れて表示されるか決定します。

- **上部余白**：原稿の先端からの距離の値を選択します。

  注：

  - 情報が完全に印字されていなくても、印字はドキュメントの後端から 6.3 mm（1/4 インチ）のところで自動的に停止します。
  - 水平方向の印字位置は、スキャナー内部のインクカートリッジの場所によって決まります。印字位置の設定についての詳細はユーザーズガイドを参照ください。
  - このオプションは、物理用紙に印刷する場合のみ使用できます。
  - 先端からのオフセットも、スキャナーのオペレータコントロールパネルで無効にすることができます。
- **イメージの上部**：画像の上端からの距離の値を選択します。
- **イメージの左側**：画像の左端からの距離の値を選択します。

  注：**イメージの上部**および**イメージの左側**オプションは、デジタルでイメージに印字する場合のみ利用できます。

フォーマットのテンプレート — フォーマットテンプレートは印字文字列を構築するために使用されます。印字文字列はドキュメントが搬送路を通過する際に印刷される文字です。前面プリンタを使用している場合、印字文字列はスキャン前にドキュメントに印刷されるため、イメージの一部といえます。背面プリンタ（i5850 スキャナー）を使用している場合、ドキュメントはスキャン後に印刷されるため、印刷はイメージ上にありません。それぞれの印字文字列の最大文字数は 40 文字です（スペースを含む）。

重要：パッチの使用とインプリンティング、またはインデックスとインプリンティングなどの一部の組み合わせを、正しく設定するのは大変です。見かけは正しそうに印刷を設定することは可能ですが、他の設定が正しくないとイメージヘッダーの情報が印字文字列の情報と一致しません。次の組み合わせを使用する場合、予期せぬ結果を招く恐れがあります。

- インデックスを使用する場合は、ISIS 印字フォーマット文字列に「%S」または「#」の値を含まない方がいいです。
- パッチカウントを使用する場合は、ISIS 印字フォーマット文字列に「%A」、「%B」、「%C」、「%D」の値を含まない方がいいです。

フォーマットテンプレートを構築するときに、次のインプリンタフォーマット変数を使用できます。

%S または # = カウンタ

%T = 時刻

%Y = 日付

%% = 「%」

注：このような変数の追加のフォーマットオプションについては、「インプリンタフォーマット表」の項を参照してください。

重要：パッチカウントは一般的にインデックスと同時に使用しません。印刷ページ枚数とホストソフトウェアのカウンタ値の間のカウンタの同期に問題がある場合、パッチカウントとインデックス用にスキャナーを不注意に設定している場合があります。

i5850 および i5850S スキャナーはインデックス / イメージアドレスフィールドでの印刷を有効にするために、次の変数に対応しています。

%A = イメージアドレスの第 1 エレメント（例、固定フィールド）

%B = イメージアドレスの第 2 エレメント（例、レベル 3）

%C = イメージアドレスの第 3 エレメント（例、レベル 2）

%D = イメージアドレスの第 4 エレメント（例、レベル 1）

レベル — 設定する印字文字列のレベルを選択します。一度に最大 4 つの違う印字文字列を設定できます。このオプションを使用してパッチシートへの印刷を防ぐことができます。例えば、パッチ 2 シートへの印刷を防ぐには、レベル 1 のフォーマットテンプレートを設定し、レベル 2 のフォーマットテンプレートは空欄のままにします。

- **すべてのレベル**：すべてのドキュメントに印刷します

- **レベル 1**：レベル 1 のドキュメントにのみ印刷します
- **レベル 2**：レベル 2 のドキュメントにのみ印刷します
- **レベル 3**：レベル 3 のドキュメントにのみ印刷します

注：このオプションは、［*形式*］が［インデックス］タブでイメージアドレスに設定されている場合にのみ利用できます。

日付

- **形式**：

  MMDDYYYY
  MMDDYY
  DDMMYYYY
  DDMMYY
  YYYYMMDD
  YYMMDD
  DDD (Julian)
  YYYYDDD（ユリアン日付）
  YYDDD（ユリウス暦）

- **区切り文字**：（例では年 / 月 / 日形式です）

  - なし
  - スラッシュ：2010/08/24
  - ダッシュ：2010-08-24
  - ドット：2010.08.24
  - スペース：2010 08 24

- **時刻**：

  HHmm
  HHmmss
  HHmmss.xx
  hhmm
  hhmmss
  hhmmss.xx
  hhmm tt
  hhmmss tt
  hhmmss.xx tt

  注：**HH** は 00 時から 23 時の 24 時間です。**hh** は 01 時から 12 時の 12 時間です。**mm** は 00 分から 59 分です。**ss** は 00 秒から 59 秒です。**xx** は 00 から 99 のカウンタです。**tt** は **AM** または **PM** です。

カウンタ — 印字文字列にカウンタを追加する場合は、以下のオプションが使用できます。

- **フィールドの幅** — ドキュメントカウンタの幅を定義します。値は、1 ～ 9 までの範囲です。
- **フォーマット** — 印字するカウンタ値の桁数がフィールド幅以下の場合、カウンタのフォーマットを設定できます（下の例はフィールド幅が 3、カウンタ値が 4 の場合です）。次のオプションを選択できます。

- **リーディングゼロの表示**（デフォルト）:「004」
- **リーディングゼロの削除**:「4」
- **リーディングゼロの圧縮**:「 4」

- **増分**：カウンタを増分するタイミングを設定できます。
  - すべての用紙
  - パッチタイプ T
  - パッチタイプ 1
  - パッチタイプ 2
  - パッチタイプ 3
  - パッチタイプ 6
- **リセット**：カウンタをリセットするタイミングを設定できます。
  - ゼロ
  - パッチタイプ T
  - パッチタイプ 1
  - パッチタイプ 2
  - パッチタイプ 3
  - パッチタイプ 6
- **リセット値**：カウンタをリセットする場合の値を選択できます。
- **フォント**：印字フォントを選択できます。
  - **単位**：**インチ、センチメートル、ピクセル**のいずれかを選択します。
  - **スタイル**：使用できる文字の書式は、**[標準]**、**[大文字]**、**[太字]**です。



標準：90 度回転



大：90 度回転



太字：90 度回転

- **デジタル印刷の例**



標準：90°



太字：90°



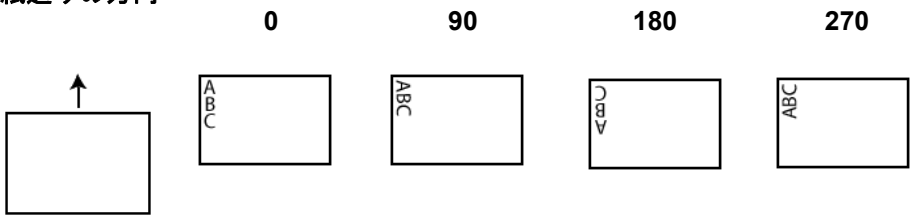
極太：90°

- **サイズ変更** — フォントの幅を調整できます。デフォルト値は **0**（調整なし）に設定されています。

  注：このオプションは、実際に用紙に印刷する場合のみ影響します。

- **方向** — 文字を縦方向（原稿の先端から開始）に印字する場合、印字文字列の方向を選択できます。利用できるオプションは次のとおりです。**0、90、180、270**。

紙送りの方向

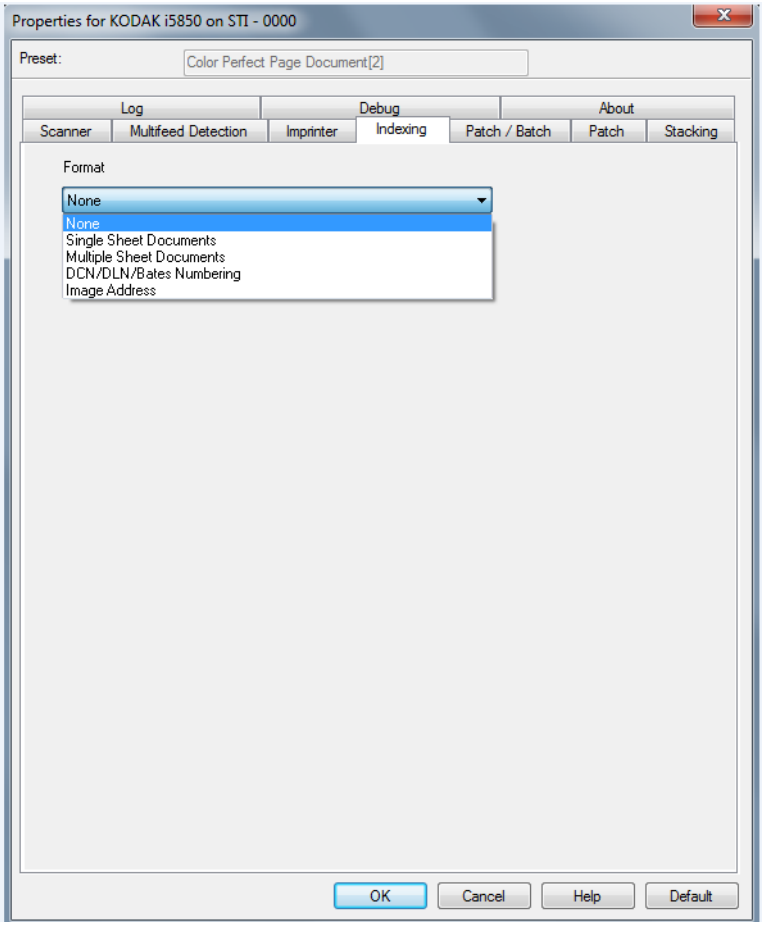


インプリンタフォーマット表

指定子	修飾子	説明
%S	なし	連続カウンタの現在の値を挿入します。
	0	オプション。カウンタの先頭に 0 を付けて定義されたフィールド幅を埋めるようにします 例：%0S
	1-9	オプション。カウンタを印刷するのに使用するフィールド幅を定義します。「0」の修飾子を使用する場合、このフィールドは 0（ゼロ）で左揃えになります。0 が使われていない場合は、先頭にスペースが入ります 例：%7S、%05S
%A	該当なし	イメージアドレスフィールド A に定義した値を挿入します
%B	該当なし	イメージアドレスフィールド B に定義した値を挿入します
%C	該当なし	イメージアドレスフィールド C に定義した値を挿入します
%D	該当なし	イメージアドレスフィールド D に定義した値を挿入します
#	該当なし	%S と同様ですが、フォーマットすることはできません
%T	1	現在の時刻を HH:mm フォーマットで入力する
	2	オプション、デフォルト。時間のフォーマットを「HHmmss」で設定します
	3	オプション。時刻のフォーマットを HHmmss.xx に設定する
	4	オプション。時刻のフォーマットを hhmm に設定する
	5	オプション。時刻のフォーマットを hhmmss に設定する
	6	オプション。時刻のフォーマットを hhmmss.xx に設定する
	7	オプション。時刻のフォーマットを hhmm t に設定する
	8	オプション。時刻のフォーマットを hhmmss tt に設定する
	9	オプション。時刻のフォーマットを hhmmss.xx tt に設定する
%Y	1	現在の日付フォーマットを「MMDDYYYY」で挿入します
	2	オプション。日付のフォーマットを MMDDYY に設定する
	3	オプション。日付のフォーマットを DDMMYYYY に設定する
	4	オプション。日付のフォーマットを DDMMYY に設定する
	5	オプション。日付のフォーマットを YYYYDDMM に設定する
	6	オプション。日付のフォーマットを YYMMDD に設定する
	7	オプション。日付のフォーマットを DDD に設定する
	8	オプション。日付のフォーマットを YYYYDDD に設定する
	9	オプション。日付のフォーマットを YYDDD に設定する
	_（アンダースコア）	オプション。日付の区切り文字をスペースに設定します。日付フォーマットの指定子あり、またはなしのいずれでも使用できますが、前に置くことはできません。例：%_Y、%2_Y
	-	オプション。日付の区切り文字をダッシュに設定する
	/	オプション。日付の区切り文字をスラッシュに設定する
	.	オプション。日付の区切り文字をドットに設定する
%%	該当なし	% を挿入する

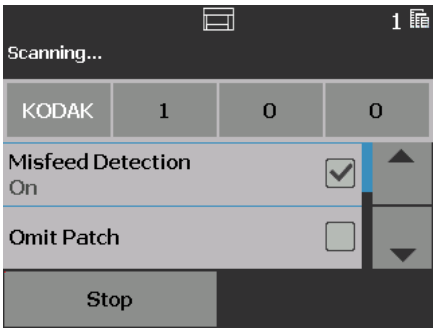
［インデックス］タブ

インデックス / イメージアドレスは、ドキュメントのトラッキング、バッチコントロール、およびイメージ管理に使用されます。このタブでの選択の設定に基づき、インデックスは増加します。

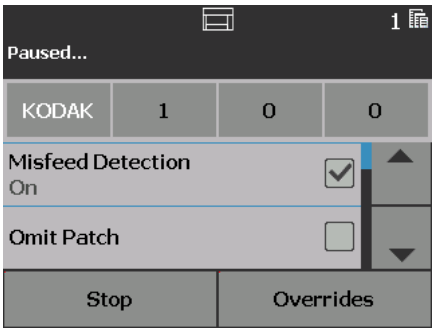


i5x50 スキャナーでは、スキャナードライバによりスキャナーに有効なインデックスがあるかどうかをコントロールすることができます。インデックスを［なし］に設定した場合、インデックスカウンタ値はスキャナーのオペレータコントロールパネルに表示されません。

インデックス - 有効



インデックス - 有効になっていません



注：オペレータコントロールパネルは、ジョブを開始するまで変更されません。

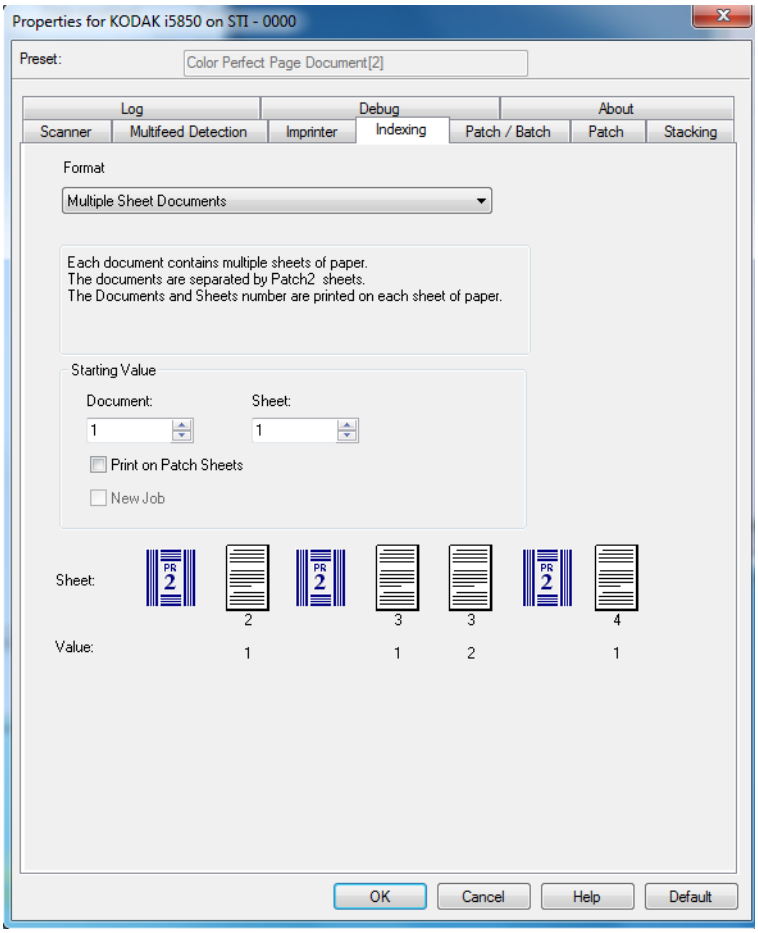
形式

- **なし**
- **単一シートドキュメント**: ジョブのドキュメントに含まれる用紙が 1 枚だけの場合に使用します。スキャナーはスキャンされる用紙ごとに、*ドキュメント*番号を増分します。**i5650/i5850 のみです**。
- **複数シートドキュメント**：ジョブのドキュメントに複数の用紙が含まれ、各ドキュメント内の各シートを追跡する場合に使用します。スキャナーがパッチ 2 シートを検出すると、*ドキュメント*番号が増分され、*シート*番号が 0 に設定されます。しかし、スキャンされる最初のページがパッチ 2 シートで、開始 *シート*番号が 0 の場合、どちらの番号も変更されません。これにより、最初のドキュメントの前にパッチ 2 シートをセットして、ドキュメントの番号に影響しないようにできます。**i5650/i5850 のみです**。
- **DCN/DLN/Bates 番号付**: ジョブのドキュメントに複数の用紙が含まれ、ドキュメントの番号を追跡する場合にのみ使用します。スキャナーがパッチ 2 シートを検出すると、ドキュメント番号が増分されます。しかし、スキャンされる最初のページがパッチ 2 シートで、*新規のジョブ*がオンの場合、番号は変更されません。これにより、最初のドキュメントの前にパッチ 2 シートをセットして、ドキュメントの番号に影響しないようにできます。**i5650/i5850 のみです**。
- **イメージアドレス**：イメージアドレスの始点を設定できます。このタブで設定したイメージアドレスルールに基づき、スキャナーはイメージアドレスをインクリメントします。*これは i5850 スキャナーでのみ利用可能です。*

注：

- **[イメージアドレス]** が［インデックス］タブで*形式*として選択されている場合、［パッチ / バッチ］タブのオプションを利用できます。
- **（なし）**と**イメージアドレス**以外のオプションの場合、*形式*を選択するとプリンターテンプレートが *ドキュメント*と *シート*の値（利用可能な場合）で自動的に更新されます。［インプリンタ］タブで**オン**にチェックしなかった場合は、自動的にオンになります。

単一シートドキュメント、複数シートドキュメント、DCN/DLN/Bates 番号付は i5650 および i5860 スキャナーでのみ利用可能です。選択すると、以下のオプションが利用可能です。



開始値

- **ドキュメント**：ドキュメント番号の開始値を入力します。値の範囲は、**[0]** から **[999,999,999]** です。この値は、スキャナーが保持します。電源がオンの場合は、スキャナーがこの値を初期化して 1 にします。
- **シート**：シート番号の開始値を入力します。値の範囲は、**[0]** から **[999,999,999]** です。この値は、スキャナーが保持します。電源がオンの場合は、スキャナーがこの値を初期化して 0 にします。

  注：このオプションは、*形式*が**複数シートドキュメント**の場合のみ利用可能です。
- **パッチシートに印刷**：印字文字列をパッチ 2 シートに適用するかを選択します。

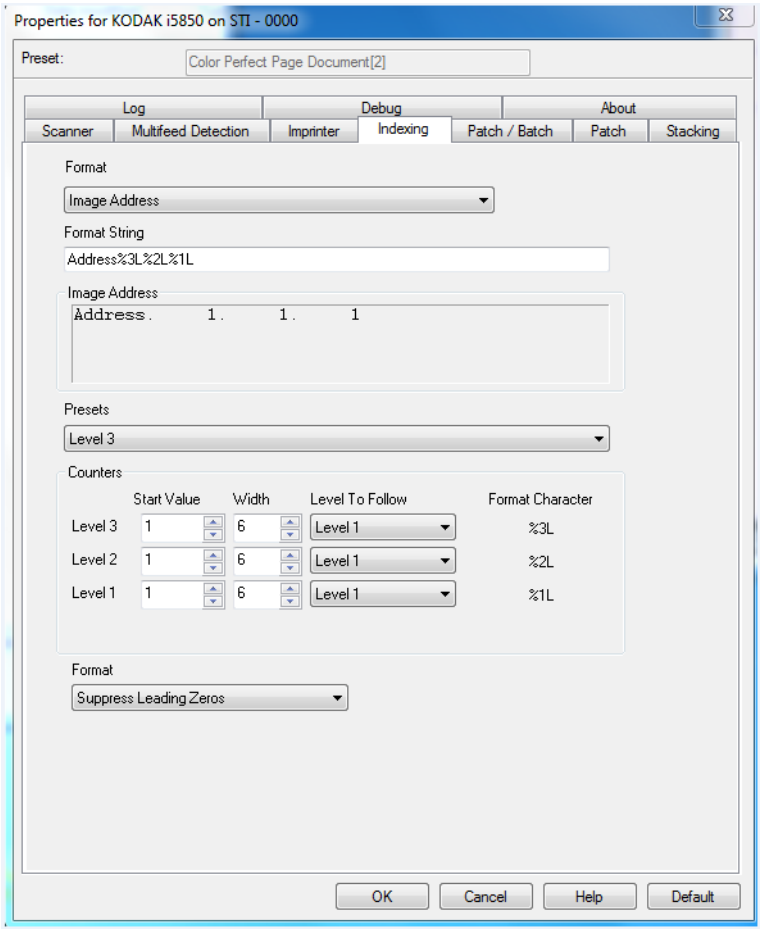
  注：このオプションは、*形式*リストから**単一シートドキュメント**を選択した場合には利用できません。

- **新規ジョブ**：次のスキャンが新規のジョブなのか、それとも前のスキャンの続きなのかを示します。この値は、スキャナーが保持します。電源がオンの場合は、スキャナーがこの値を初期化してオンにします。

  注：このオプションは、*形式*が **DCN/DLN/Bates 番号付**の場合のみ利用可能です。

シートと値 — サンプルジョブと各シートにどのように印刷されるかを表示します。サンプルのシートをジョブを示すように変更できます。表示されている印刷の値は、*開始値*、*パッチシートに印刷*、*サンプル内のシートの現在の選択に基づきます。*

[形式] 選択が［**イメージアドレス**］の場合、以下のオプションが利用できます。



フォーマット文字列 — このテキストフィールドでは、イメージアドレスを構成することができます。上記のサンプル画面のフォーマット文字列は、アドレスの固定フィールド値と、3 レベルのイメージアドレスを表します。

[イメージアドレス] — 開始イメージアドレスを表示します。このフィールドの値は、*[フォーマット文字列]* 領域と、*[カウンタ]* 領域の *[開始値]* フィールドの情報を反映しています。各フィールドの最大幅は 9 文字です。合計イメージアドレスが、27 文字（3 つの区切り文字を含む 30 文字）を超えてはなりません。

プリセット — このフィールドの選択肢を使用して、[*フォーマット文字列*] フィールドに自動的に入力することができます。オプションは、次のとおりです。

- **カスタム**：該当する値を入力します。
- **なし**
- **固定**：アドレス
- **レベル 3**：Address%3L%2L%1L
- **レベル 2**：Address%2L%1L
- **レベル 1**：Address%1L
- **レベル 3 オフセット**：Address%3L%2L
- **レベル 2 オフセット**：Address%2L

固定フィールドの設定や、固定フィールド値の入力はできません。デフォルトの固定フィールド値は **Address** です。

カウンタ — 各イメージアドレスレベルに対して、**開始値**と**幅**を入力し、**準拠するレベル**を選択します。

- **開始値**：開始値は、フォーマット文字列で指定したフィールド内のイメージアドレスに反映されます。
- **幅**：0 の値は、イメージアドレスレベルを使用しないことを示します。幅は 9 文字以内でなければなりません。
- **Level to Follow**（準拠するレベル）：他の入力がない場合に、スキャナーが次のイメージアドレスレベルを設定するために従うルールです。たとえば、パッチシートやバッチ処理の最後などの場合があります。イメージアドレスで定義した各レベルフィールドに対して、準拠するレベルを定義する必要があります。

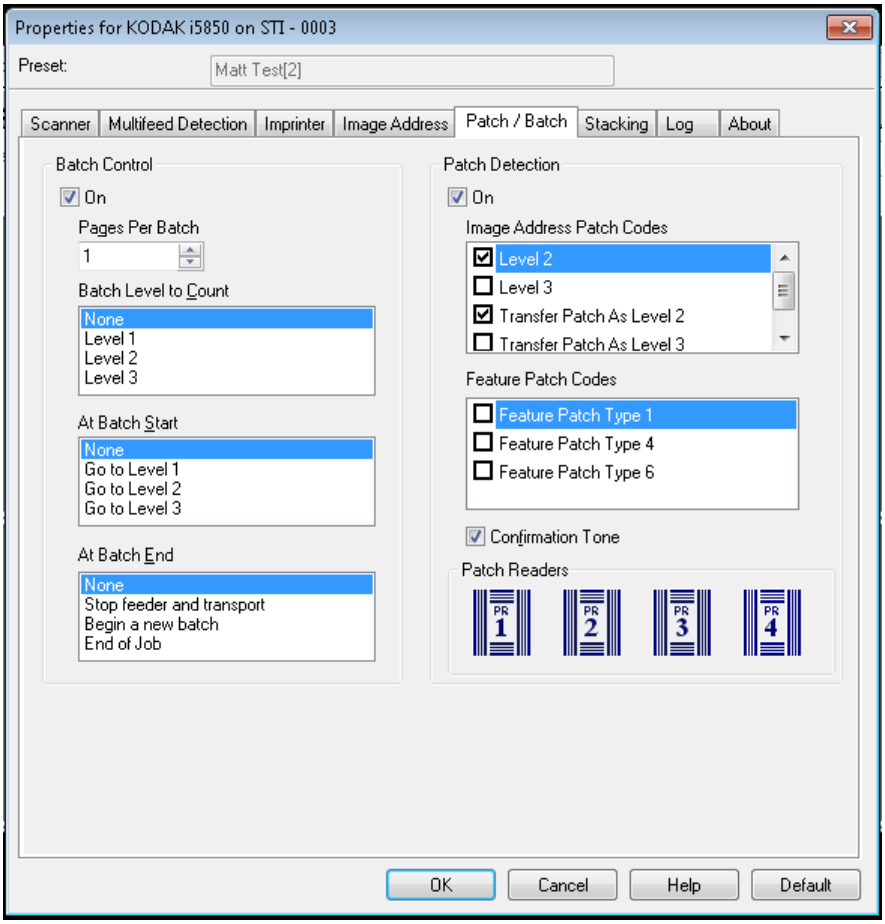
  注：*[幅]* の欄の合計値と固定フィールドの文字数の合計が、27 文字以内でなければなりません。

フォーマット — プリンタが使用し、スキャナーのオペレータコントロールパネルに表示されるイメージアドレス文字列のフォーマットを選択します。カウンタフォーマットの印刷用には、以下の選択肢が提供されています。

- **先行ゼロを表示するフォーマット**（例 : 0009）。デフォルト設定です。
- **先行ゼロを抑制するフォーマット**（例 : 9）。
- **先行ゼロを圧縮するフォーマット**（例 : 9）。

[パッチ / バッチ] タブ

[バッチ / パッチ] タブは、バッチとパッチの機能を提供します。バッチは、ページ／ドキュメント数をカウントする作業です。[パッチ] タブで認識するパッチの種類を選択できます。複数のパッチを 1 度に選択できます。



バッチコントロール

オン — バッチ処理をオンにして、バッチコントロールの他のオプションを有効にします。

バッチ当たりのページ — カウントに到達したら、操作を実行する前にカウントするドキュメントの枚数を定義します。

カウントするバッチレベル — カウントするレベルを設定します。**なし、レベル 1、レベル 2**、または**レベル 3** を選択できます。カウントするレベルは、[インデックス] タブで定義されているイメージアドレスのテンプレート内になければなりません。

バッチの最初 — カウントが指定枚数に達した後次のドキュメントへのレベルを定義します。次のオプションを選択できます。**なし、レベル 1 へ移行、レベル 2 へ移行**、および**レベル 3 へ移行。**

バッチの最後 — バッチの最後のドキュメントの処理後に実行するアクションを定義します。次が選択できます。**なし、フィーダと搬送路の停止、新しいバッチの開始、ジョブの終了。**

パッチ検出

オン — パッチ検出をオンにして、パッチ検出の他のオプションを有効にします。

イメージアドレスパッチコード — これらのパッチタイプは、イメージアドレスに使用されます。パッチリーダでパッチが検出されると、新しいドキュメントに新しいイメージアドレスが自動的に割り当てられます。このため、イメージを見ながら 1 セットのドキュメントの終了位置と次セットのドキュメントの開始位置を指定する必要がありません。階層ドキュメント構造と、自動代替バッチを提供します。[**レベル 2**]、[**レベル 3**]、[**トランスファーパッチ - レベル 2**] または [**パッチ T/ トランスファーパッチ - レベル 3**] を選択できます。

パッチリーダは、あらかじめ定義されたパッチコードを自動的に感知し、それに応じてドキュメントレベルを変更します。

パッチ 2 — レベル 2 を*現在*のドキュメントに割り当てます。



（これらのパッチはサンプルであり、仕様どおりではありませんので、実際の処理には使用しないでください。）

パッチ 3 — レベル 3 を*現在*のドキュメントに割り当てます。



（これらのパッチはサンプルであり、仕様どおりではありませんので、実際の処理には使用しないでください。）

パッチ T / トランスファーパッチ — 事前定義されたレベルを*次*のドキュメントに割り当てます。[定義] ボックスでレベル 2 またはレベル 3 を選択した場合に定義されます。



（これらのパッチはサンプルであり、仕様どおりではありませんので、実際の処理には使用しないでください。）

機能パッチコード — これらのパッチタイプは、スキャン後のイメージコントロールの場合にホストによって使用されます（イメージアドレスの作成には使用しません）。たとえば、白黒からカラーやグレースケールに変更するときや、ワークフローの制御に使用します。

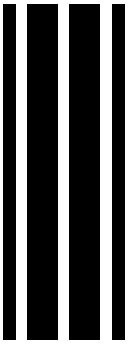
機能パッチタイプ 1



（これらのパッチはサンプルであり、仕様どおりではありませんので、実際の処理には使用しないでください。）

機能パッチタイプ 4

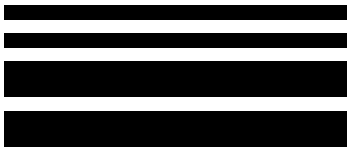




イメージアドレス管理が無効の場合

（これらのパッチはサンプルであり、仕様どおりではありませんので、実際の処理には使用しないでください。）

機能パッチタイプ 6



（これらのパッチはサンプルであり、仕様どおりではありませんので、実際の処理には使用しないでください。）

認識トーン — パッチが認識されたことを通知するために認識トーンを使用することができます。デフォルトでは認識トーンはありません。

パッチリーダ — スキャナー内の物理的なパッチリーダ位置と対応しているアイコンを選択します。1、2、3、4 のいずれかのパッチリーダを選択します。

PR1 — 左側のパッチリーダです。

PR2 — 中央左側のパッチリーダです。

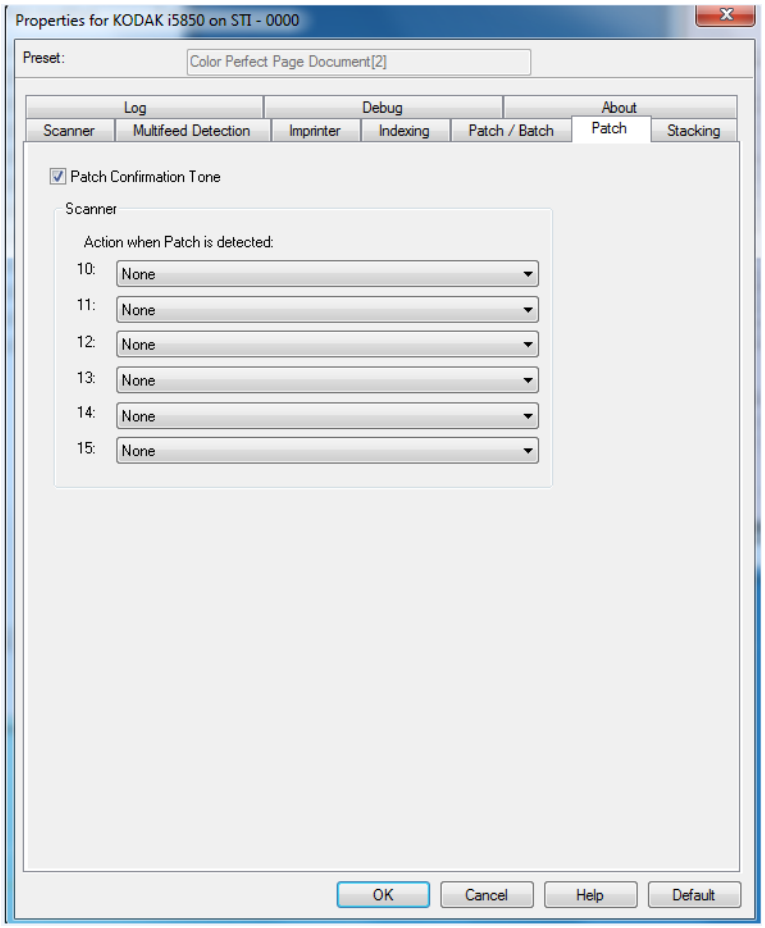
PR3 — 中央右側のパッチリーダです。

PR4 — 右側のパッチリーダです。



[パッチ] タブ

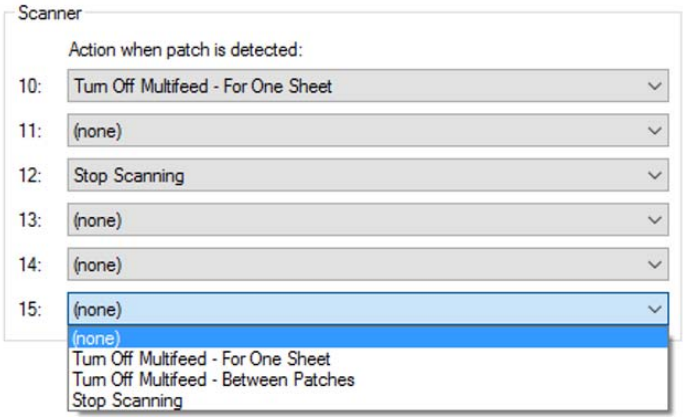
［パッチ］タブには、以下のオプションがあります。



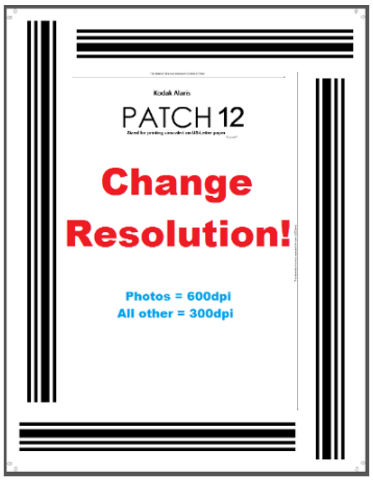
パッチ確認トーン — パッチが認識されたことを通知するために確認トーンを使用できます。デフォルトでは確認トーンはありません。

パッチ検出時のアクション — スキャナーのオプションではスキャナーコントロールパッチー式を使用できます。このパッチは 10 ～ 15 の番号が付いた新しいパッチパターンで、原稿の準備中に用紙のバッチにパッチページを挿入してスキャナーの機能を自動的に制御するために準備されています。例えば、スキャンしているページを含む封筒をスキャンする必要があるジョブがあるとします。封筒によりスキャン処理速度を低下させる重送が発生します。これを避けるため、スキャンアプリケーションの**パッチ検出時のアクション**オプションを使用してスキャナーコントロールパッチの 1 つを選択し、**重送をオフにする – シングルシート用**オプションを割り当てることができます。例えば、パッチタイプ 10 を選択した場合、封筒の前にパッチ 10 シートを挿入してスキャナーでの重送の発生を防ぎます。

パッチ検出時に以下の 1 つを選択します。



- **重送をオフにする – シングルシート用**：この機能の作動に使用するパッチに続くページの重送検知を無効にします。
- **重送をオフにする – パッチ間**：同種の別のパッチを読み込むまで重送検知をオフにします。この機能は不要な重送イベントを発生させる一連の原稿がバッチに存在する場合に使用できます。
- **スキャンの停止**：原稿のバッチの特定のポイントでスキャンを停止します。このオプションは原稿のスキャンの仕方に変更が必要な場合に使用できます。例えば、ビジネス用原稿を 200 dpi でスキャンし、そのバッチ内に高解像度（600 dpi のカラーイメージ）でスキャンする必要がある写真が含まれている場合、バッチの写真の直前および直後に**スキャンの停止**パッチを挿入してスキャナーを停止し、解像度を変更できます。また、パッチページに指示を印刷して必要な変更を示すことができます。



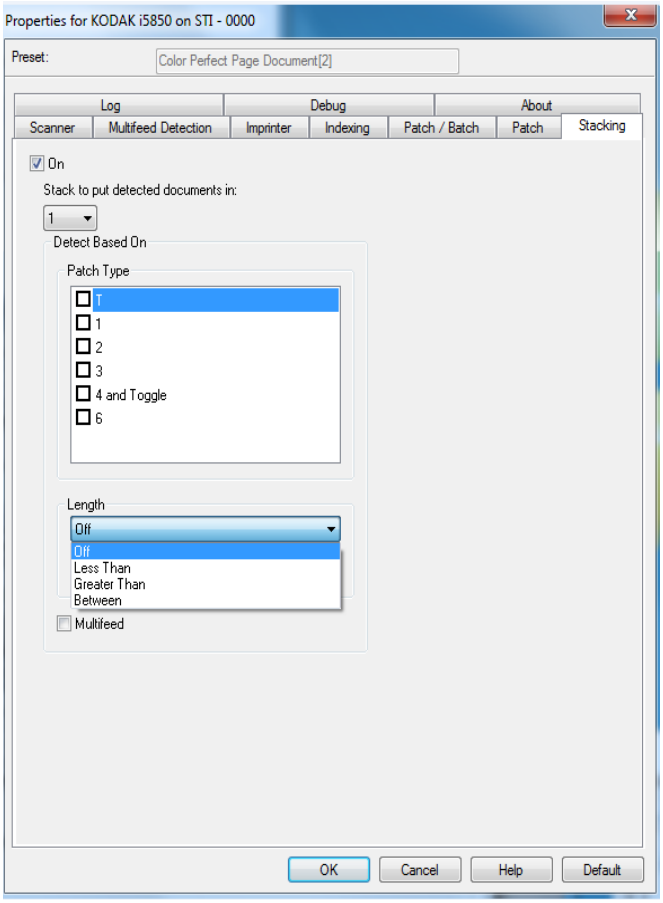
注：また、スキャンアプリケーション（*Kodak* Capture Pro Software など）は**スキャンの停止**パッチページにデータを埋め込んで、自動的にスキャナー設定の変更、スキャンの再開を行うことで、必要な変更を完全自動化できます。

[スタッキング] タブ

[スタッキング] タブでは、*Kodak* 管理スタッキングアクセサリ出力トレイの 2 つのスタックに、原稿を仕分けるオプションを設定できます。

注：

- [スタッキング] タブは、スキャナーで *Kodak* Controlled Dual Stacking Accessory が有効な場合にのみ使用できます。
- この機能は i5x50S スキャナーではサポートされていません。



オン — スタッキングをオンにして、このタブの他のオプションを有効にします。

注：スキャナーのオペレータコントロールパネルからオンまたはオフにすることで、スタッキングは優先処理される場合もあります。

検出された原稿を入れるスタック：どのスタックに **[検出基準]** 設定に一致するドキュメントを入れるかを指定します。一致しない原稿はすべて別のスタックに入ります。

注：原稿の重さや状態により、原稿を最適にスタックできるかどうかに影響する可能性があるため、長さが 6 インチ /152 mm 未満の原稿（請求書など）はスタック #1 に、6 インチ /152 mm 以上の原稿（パッチシートなど）はスタック #2 に仕分けることをお勧めします。

検出基準

- **パッチタイプ** — パッチシートがある場合、どのパッチシートを原稿セットから仕分け、そして選択したスタックに入れるかを選択できます。次の任意の組み合わせがオプションになります。**T、1、2、3、4、トグル、6、10、11、12、13、14、15**。パッチシートはスタック #2 に仕分けることをお勧めします。

  スキャナーのオペレータコントロールパネルの *デュアルスタッキング*オプションでは、パッチシートを使用して原稿をスタック #2 あるいはスタック #1 にスキャンする原稿と仕分けることができます。

  注：

  - スキャナーはパッチシートのイメージを生成します。
  - パッチシートを硬い紙に印刷すると、より確実にスタッキングできるようになります。
  - 詳細については、『ユーザーズガイド』の「パッチコードの要件」のセクションを参照してください。

長さ — どの原稿を原稿セットから仕分けるかを、原稿の長さを基準に選択できます。

- **オフ**
- **未満**：この長さ以下のドキュメントが、選択したスタックに仕分けられます。比較的短い原稿（請求書など）をスタック **1** に仕分ける場合、このオプションをお勧めします。
- **以上**：この長さ以上のドキュメントが、選択したスタックに仕分けられます。比較的長い原稿をスタック **2** に仕分ける場合、このオプションをお勧めします。
- **範囲**：長さが選択した範囲内のドキュメントが、選択したスタックに仕分けられます。

  注：

  - スキャン中に原稿が斜めに傾いてしまうこともあり得るため、長さには 1/2 インチ /25 mm を加算して入力してください。
  - 6 インチ /152 mm 未満の原稿では、短原稿インサートを使用することで、スタック **1** へのスタッキングをより確実に行うことができます。

重送 — 重送されたと判断される原稿をすべて仕分ける場合、このオプションを選択します。これをオンにする設定、および重送検知の設定は、［重送検知］タブで行います。

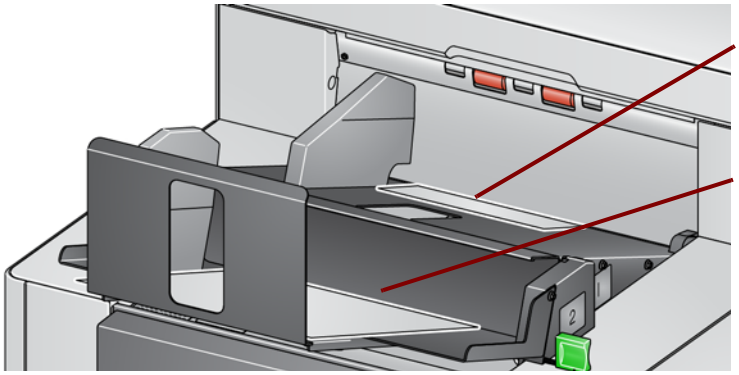
注：

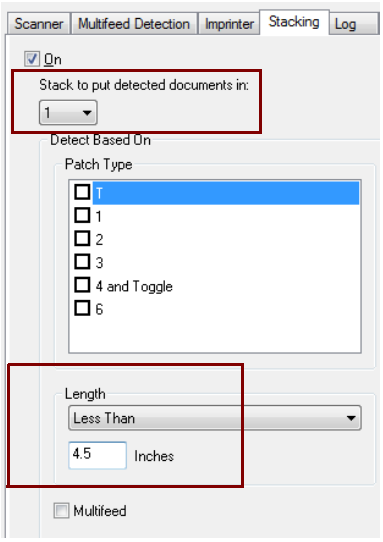
- 比較的厚い原稿を検知し、これらをスタック #2 に仕分けることが可能になることで、このオプションにはさらなる機能があります。すべての原稿が同じようなサイズのため、長さを基準とした検知が使用できないような場合、このオプションは良い選択になります。
- このオプションは、重送検知を自動的にオンにしません。

スタッキングオプションを使用する場合の推奨設定

以下に、スタッキングオプションを使用する方法をいくつかの例で示します。

短い原稿の選別





請求書などの短い原稿をその他の原稿と選別する場合、スタッキングを次のように設定します。

検出された原稿を入れるスタック：

1（スタック #1）

*長さ*オプション：

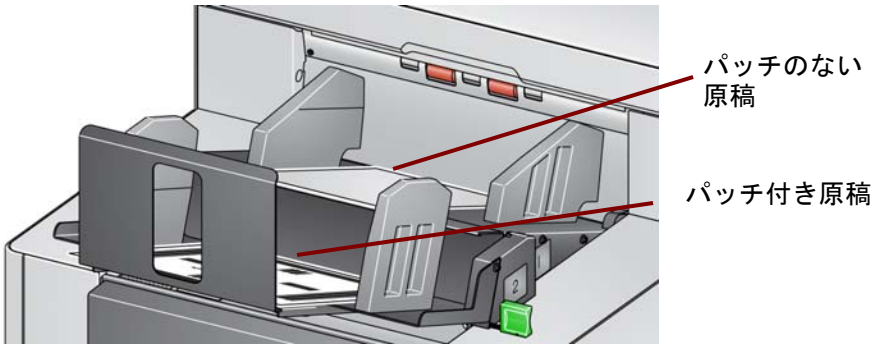
未満：最も短い原稿に 1/2 インチを加算した長さを設定します。

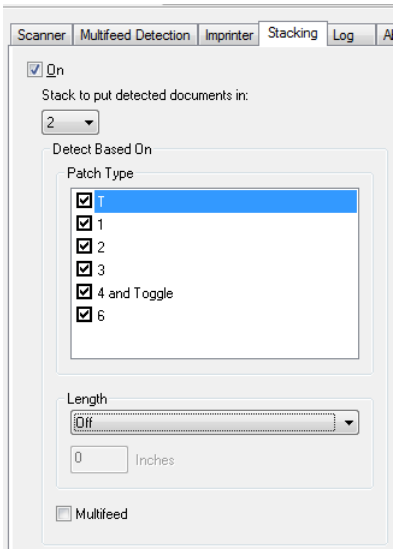
注：

- 短い原稿を給紙中に斜めに傾いてしまうこともあり得るため、1/2 インチを加算する必要があります。
- 比較的短い原稿をスタック #2にスタックしようとしても、スタック #2 の位置には届かず、うまくいきません。

- 6 インチ未満の原稿では、短原稿インサートを使用することで、スタック #1 へのスタッキングをより確実に行うことができます。

パッチコード付き原稿区切りの選別





パッチコード付き原稿区切りシート（またはカラートグルパッチシート）をその他の原稿と選別する場合、スタッキングを次のように設定します。

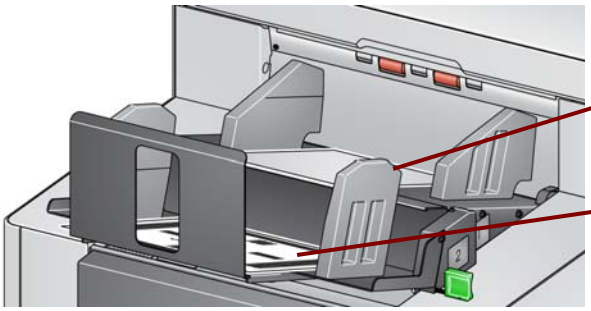
検出された原稿を入れるスタック：

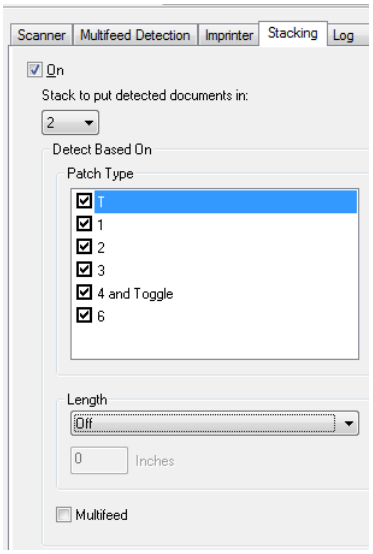
2（スタック #2）

*検出基準：パッチタイプ*オプションを 1 つ以上のパッチタイプに設定すると、原稿区切り用に挿入されたパッチ付き原稿は、通常では大量に注文されるか、要求に応じて印刷されます。

管理デュアルスタッキングでは、作業に役立つ硬い紙を検出し、この用紙にパッチ付き原稿を印刷します。これにより、選別とスタッキングがより確実にできるようになります。

選択した原稿の選別





選択した原稿をスタックから（1 万ドルを超える請求書など）選別する場合、スタッキングを次のように設定します。

検出された原稿を入れるスタック：

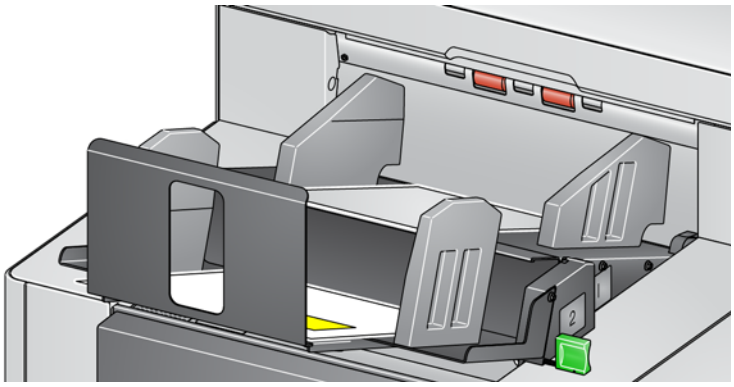
2（スタック #2）

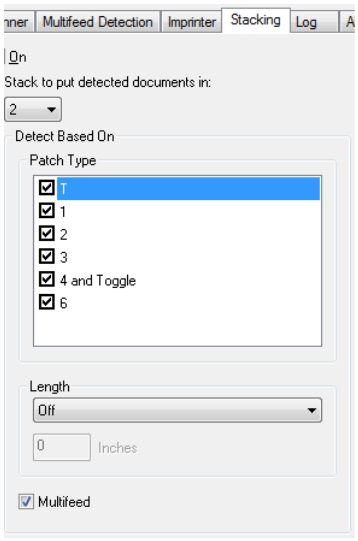
検出基準：*パッチタイプ*オプションに、1 つ以上のパッチタイプを設定し、スキャナーのオペレータコントロールパネルにある**デュアルスタッキング**をドキュメントセパレーションに指定していないパッチタイプに設定します（パッチ 6 など）。

ドキュメントの準備中に選別するドキュメントの前後にパッチシートを挿入します。

スキャン後、パッチシートと原稿はスタック #2 に出力されます。

重送アラーム原稿の選別





重送アラームを作動させた原稿を選別する場合、スタッキングを次のように設定します。

検出された原稿を入れるスタック：

2（スタック #2）、

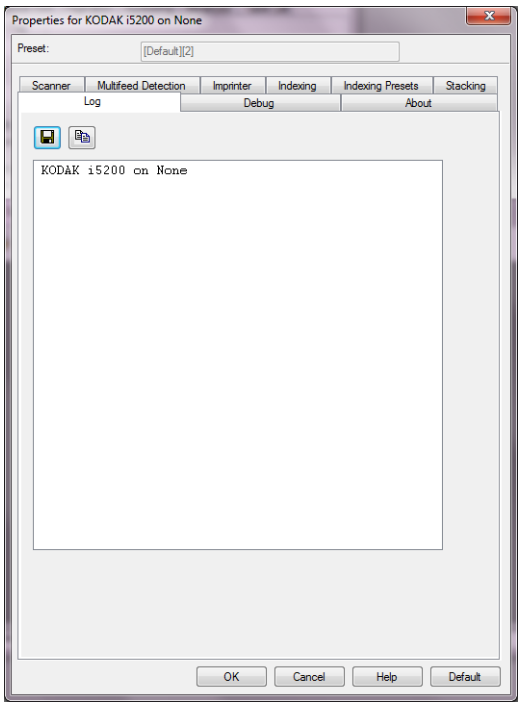
検出基準：*重送*オプションを設定します。

重送により例外スタッキングを作動させると、機能がさらに増えます。たとえば、スタック #2 で重送アラームを作動させるようなスタッキング原稿は、比較的厚い原稿を選別する方法になり得ます。サイズやパッチではこのような原稿を選別できません。

注：**最大長の許可**を優先にしても、管理デュアルスタッキングの長さ保護は無効になりません。

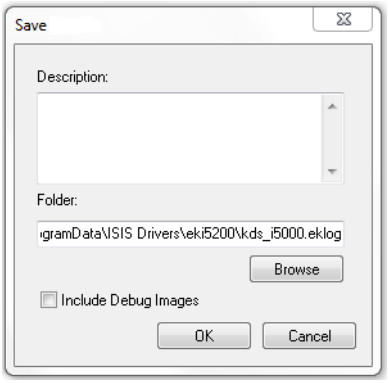
[ログ] タブ

[ログ] タブには、これまでに発生したエラーが表示されます。



オペレータログと測定値ログを表示し、情報をクリップボードにコピーしてドキュメントに貼り付けることで情報をファイルに保存したり、ログをすべて保存したりできます。

名前を付けて保存：サポート担当者が閲覧できるようにすべてのログを保存します。選択すると保存ウィンドウが表示されます。

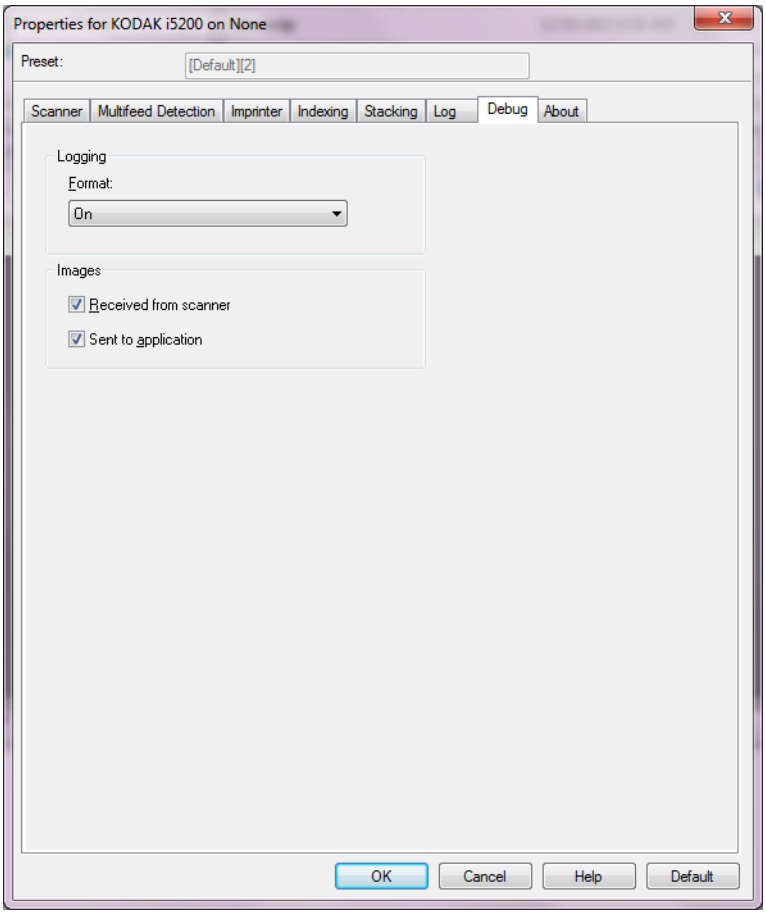


- **説明**：ログを保存する問題 / 理由の簡単な説明を入力します。
- **フォルダ**：ログの保存先です。
- **ブラウザ**：オペレーティングシステムの [フォルダを参照] ウィンドウが表示され、使用するフォルダを検索できます。
- **デバッグイメージを含む**：生成されたデバッグイメージをログと共に保存します。これは、サポート担当者から指示された場合のみオンにしてください。

OK：ファイルを eklog ファイルで保存します。

[デバッグ] タブ

[デバッグ] タブで、スキャナーの使用中に発生する問題をサポート担当者が診断できるオプションをオンにできます。このタブは、テクニカルサポートから指示がある場合のみ使用してください。



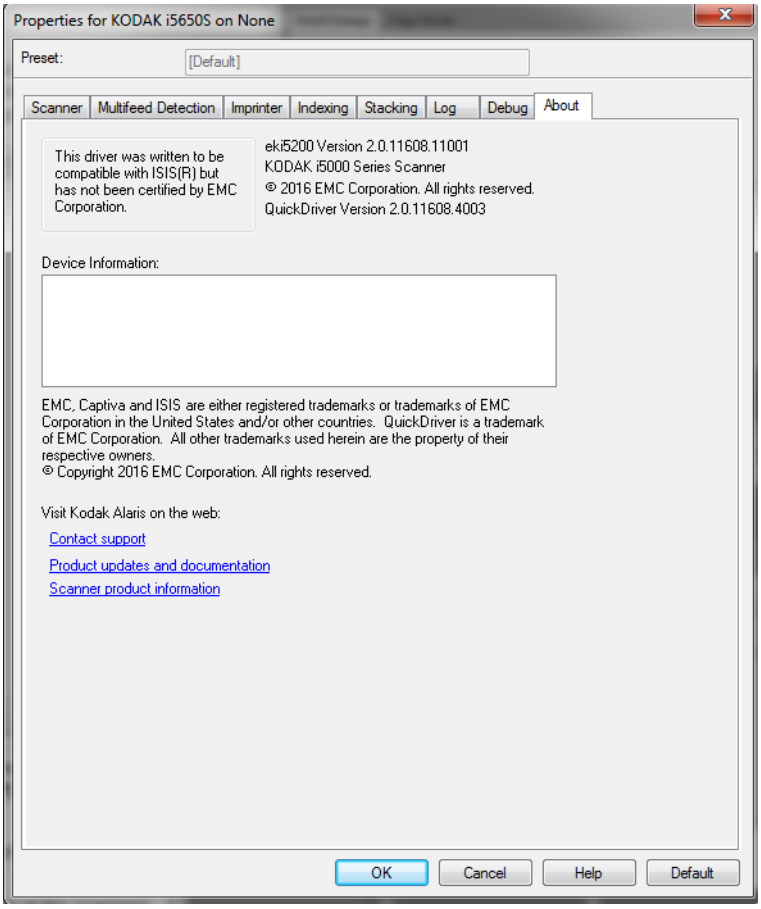
ログ — スキャナーとスキャンアプリケーションの間で行われた通信を保存します。オプションは、**オフ**または**オン**です。

イメージ

- **スキャナーから受信** : PC がスキャナーから受信したイメージを保存します。
- **アプリケーションに送信** : スキャンアプリケーションがスキャナーから受信したイメージを保存します。

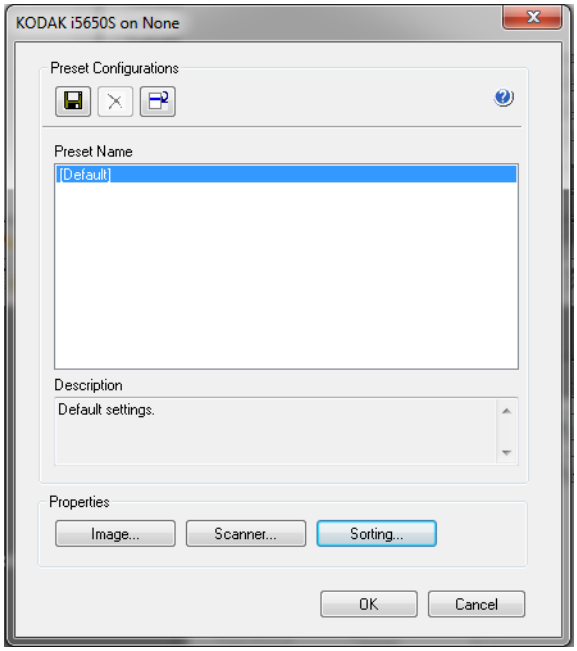
[バージョン情報] タブ

バージョン情報タブはスキャナーとドライバについての情報を表示します。



ソート設定の実行

ISIS ドライバからソート設定を開くには、Scan Validation Tool を前述の手順で開き、ISIS ドライバにアクセスします。

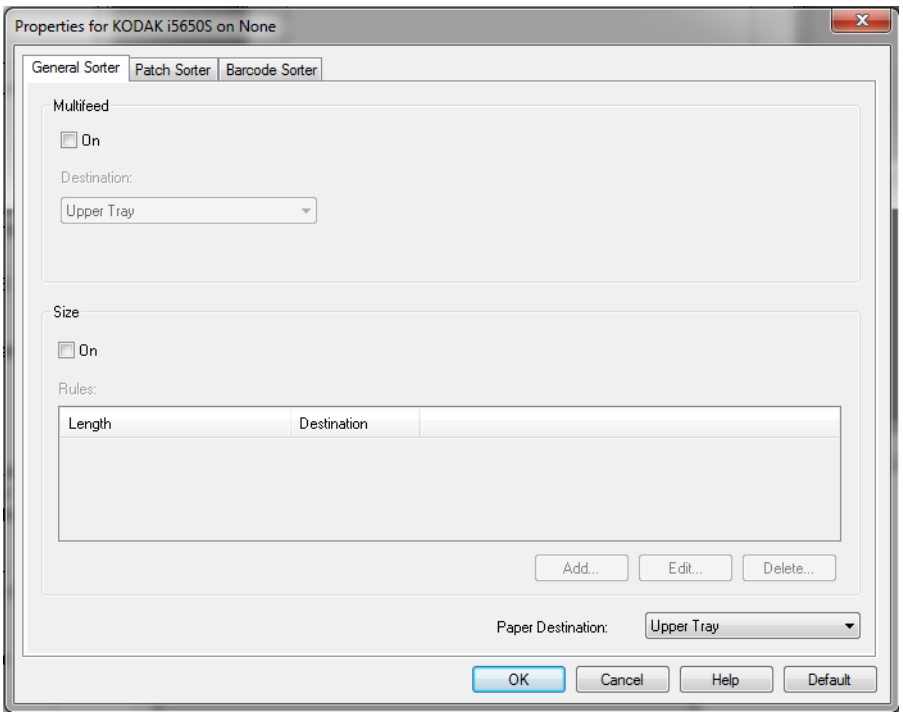


[ソート] をクリックして、スキャナーのソートオプション設定を実行します。以降の項ではソート設定の詳細や手順について説明します。

[ソート] タブで、設定基準に基づいて、原稿セット内の用紙を異なる出力先に送るようにオプションを設定できます。

注：[ソート] タブは i5650S および i5850S スキャナーでのみ利用可能です。

ソートオプションは次の 3 つのタブで分類されます。[一般ソーター]、[パッチソーター]、[バーコードソーター]



用紙の送り先 — 用紙をソートする時に、送り先をソートされ*ない*用紙が送られるデフォルトのトレイに指定します。通常、ソートされた用紙の送り先はこの送り先と異なります。この選択は 3 つすべての [ソート] タブで表示されます。いずれかのタブで行った変更は、他のタブでも変更されます。

用紙の送り先を指定すると、ソート*しない*場合にも便利です。例えば、先端調整のため用紙の送り先に「分厚いページを後部排紙口に送る」、または「原稿を上段トレイに送る」などを使用できます。

ソートルールの優先順位

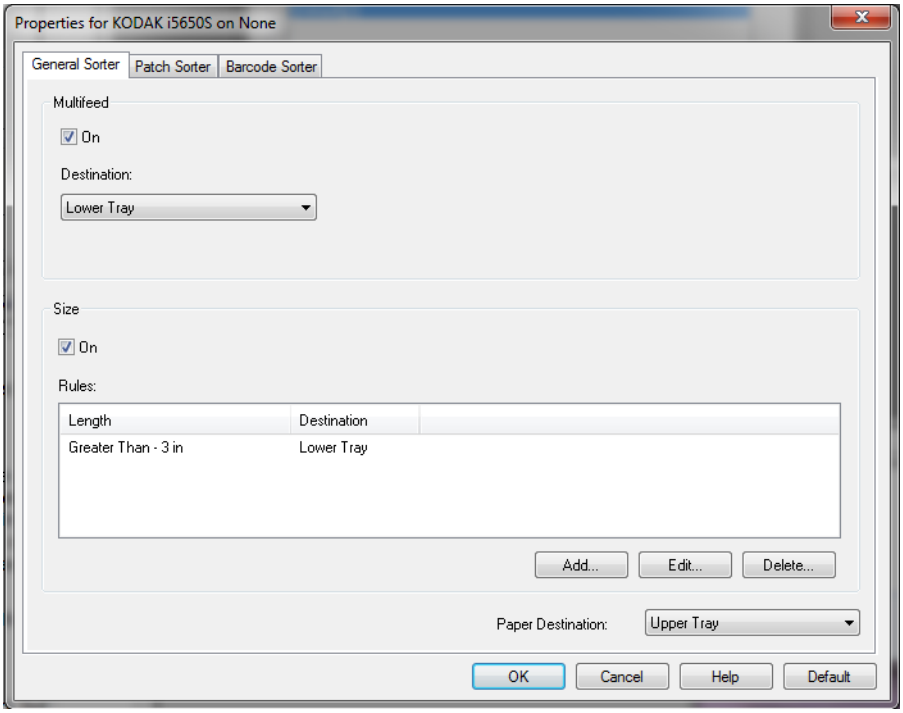
ソートルールには次の優先順位が適用されます。

注：後部排紙口の OCP オプションは常に最優先です。

1. 重送ソート
2. サイズソート
3. パッチソート
4. バーコードソート

[一般ソーター] タブ

[一般ソーター] タブで、重送用紙および / または特殊なサイズの用紙をソートするオプションを設定できます。



重送

重送ソートは常に他のソートルールに優先します。

- **オン** — 重送ソートをオンにして、重送オプションを使用可能にします。

  注：重送検知もオンにする必要があります（前述の「[重送検知] タブ」の項を参照）。*[検知時の動作]* オプションは、用紙をスキャナーに残さないオプションにする必要があります。例えば、*[スキャンの一時停止 - 用紙を搬送路に残す]* を選択した場合、用紙はスキャナーに残されるため用紙はソートされません。

- **送り先** — 各重送用紙を搬送する出力先を示します。

サイズ

サイズソートルールは、パッチソートとバーコードソートには優先しますが、重送ソートには優先しません。

- **オン** — サイズ別にソートを有効にして、このグループの他のオプションを使用可能にします。
- **ルール** — ルールは 2 つまで設定できます。表は、各ルールの詳細を示しています。列は [サイズ] ウィンドウからの各選択を示します。

ルール用のボタン：

Add... **追加** — 新しいルールを作成できます。[サイズソーター設定] ウィンドウが表示されます。

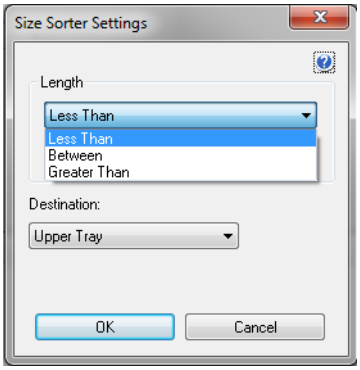
注：このオプションは、許容ルールを最大数まで作成した場合、使用できません。

Edit... **編集** — 現在選択されているルールを変更できます。[サイズソーター設定] ウィンドウが、選択されているルールの現在のオプションと一緒に表示されます。

Delete... **削除** — 現在選択されているルールを削除できます。

[サイズソーター設定] ウィンドウ

このウィンドウから、1 つのサイズルールのオプションを選択できます。



長さ — このルールを適用する必要のある用紙の長さを選択できます。

- **未満**：この長さより短い用紙は決められた送り先に送られます。
- **以上**：この長さより長い用紙は決められた送り先に送られます。
- **範囲内**：長さが選択範囲内の用紙は決められた送り先に送られます。

注：

- 長さオプションは 1 回だけ使用可能です。オプションが別のルールで使用されている場合は、使用できません。
- 設定可能な長さの値は、*送り先*の選択によって変わる場合があります。
- 前面トレイの送り先（下段トレイまたは上段トレイ）で**未満**または**範囲内**の長さが指定されている場合、ページサイズを 38 cm より短くする必要があります。
- 後部排紙口に**未満**または**範囲内**の長さが指定されている場合、ページサイズを 15 cm より短くする必要があります。
- スキャン中に原稿が斜めに傾いてしまうこともあり得るため、長さには 1/2 インチ /15 mm を加算して入力してください。

送り先 — このルールが適用される各用紙を搬送する出力先を示します。

OK — 変更を保存してこのウィンドウを閉じます。

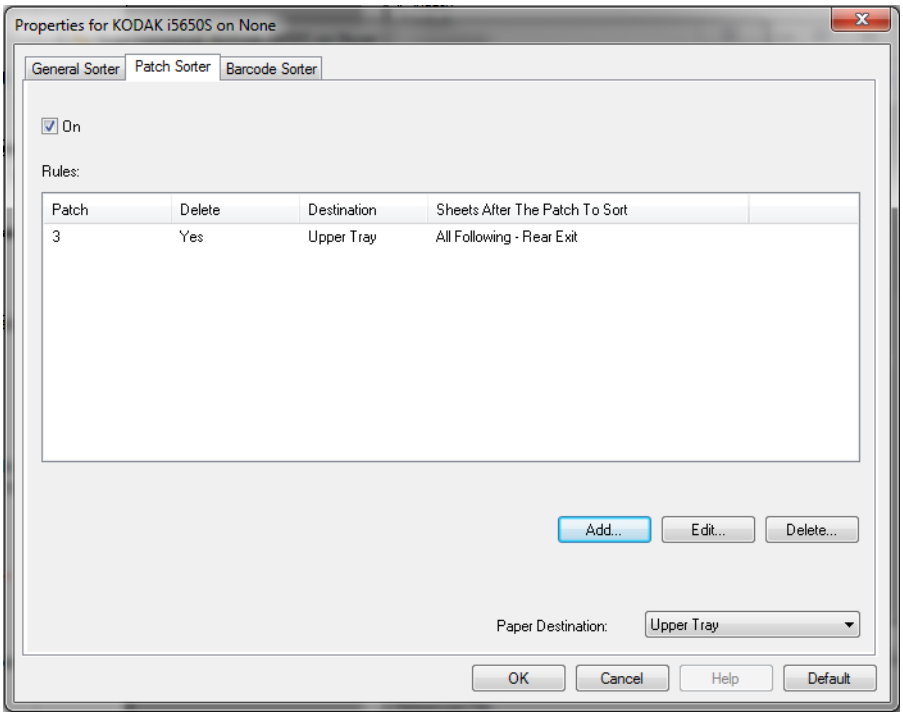
キャンセル — 変更内容を保存せずにこのウィンドウを閉じます。

ヘルプ：このウィンドウのヘルプ情報を表示します。

[パッチソーター] タブ

重送およびサイズソートはパッチソートに優先します。パッチソートはバーコードソートに優先します。

[パッチソーター] タブでパッチシートとパッチシートの後のシートをソートするオプションを設定できます。



- **オン** — パッチソートをオンにして、パッチソートオプションを使用可能にします。
- **ルール** — ルールは 8 つまで設定できます。表は、各ルールの詳細を示しています。列は [パッチソーター設定] ウィンドウからの各選択を示します。

ルール用のボタン：

Add...

追加 — 新しいルールを作成できます。[パッチソーター設定] ウィンドウが表示されます。

注：このオプションは、許容ルールを最大数まで作成した場合、使用できません。

Edit...

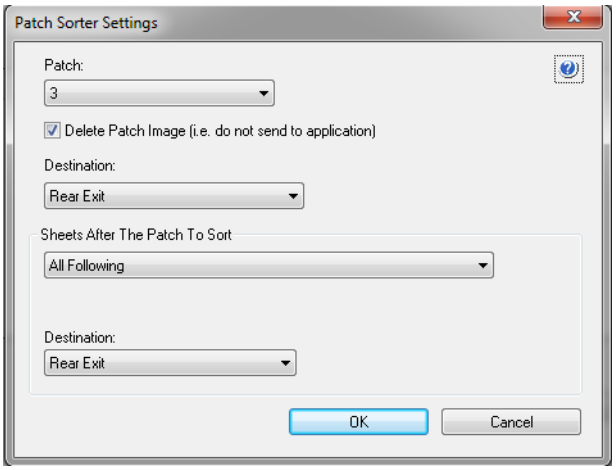
編集 - 現在選択されているルールを変更できます。[パッチソーター設定] ウィンドウが、選択されているルールの現在のオプションと一緒に表示されます。

Delete...

削除 — 現在選択されているルールを削除できます。

[パッチソーター設定] ウィンドウ

このウィンドウから、1 つのパッチルールのオプションをすべて選択できます。



注：パッチは 1 つのルールでのみ使用できます。パッチタイプが別のルールで使用されている場合は、使用できません。

パッチ — このルールを適用するために認識する必要のあるパッチを選択できます。

- **T、1、2、3、4、トグル、6、10、11、12、13、14、15.**
- **すべて**：残りのすべてのパッチ（別のルールで使用されていないすべてのパッチ）を示します。

パッチイメージの削除 — パッチシートのすべてのイメージが破棄されアプリケーションに送信されません。

注：

- 選択した場合は、他のスキャナーオプションが何に設定されていても、イメージは削除されます。*パッチイメージの削除を選択するとホストアプリケーションは原稿セパレーションにパッチを使用できません。*
- 選択しない場合は、他のスキャナーオプションでパッチイメージを削除するかどうか判断します。

送り先 — このルールが適用される各パッチシートの出力先を示します。

パッチシートの後のシートをソート — パッチシートのすぐ後のどの用紙を設定した送り先に送るか選択できます。

- **（なし）**
- **指定枚数**：**1** ～ **99** までの正確なシート枚数を選択できます。
- **パッチシートの前のすべての用紙**：このルールのパッチが検出された場合、その次の用紙までのすべての用紙が送り先に送られることを示します。

  注：ソートする原稿セットに枚数が分からない連続ページがある場合に、このオプションを使用します。この場合、このパッチタイプでパッチシートを 2 枚取得し、1 枚をソートするページの前にセットして、もう 1 枚をソートするページの後にセットします。
- **パッチシートの後のすべての用紙**：スキャンセッションが終了するまで、パッチシートの後のすべての用紙が送り先に送られることを示します。

注：

- 処理中のソートは終了するまで続きます。そのため、特定枚数の用紙をソートするというルールがあり、その枚数の用紙がソートされる前に 2 番目のソートルールに一致する場合、2 番目のルールは無視されます。
- ソートは次のいずれかのイベントで終了します。
  - スキャン停止
  - スキャンを停止させる重送
  - スキャンを停止させる紙詰まり

送り先：このパッチソートルールが適用される各用紙を搬送する出力先。

注：[パッチシートの後のシートをソート] が**（なし）**ではない場合のみ、送り先は使用可能です。

OK — 変更を保存してこのウィンドウを閉じます。

キャンセル — 変更内容を保存せずにこのウィンドウを閉じます。

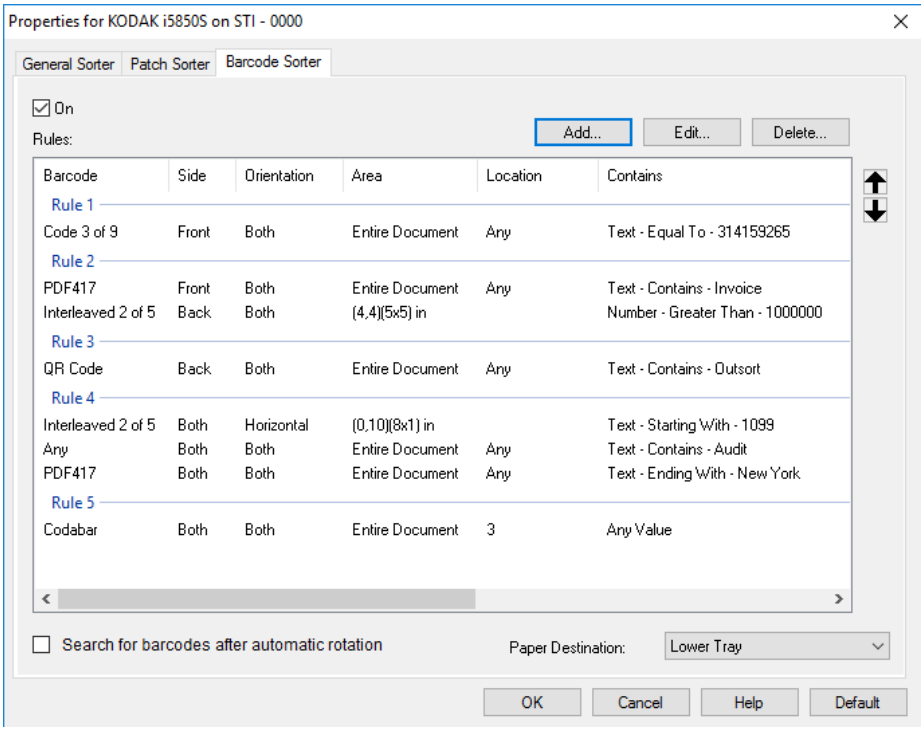
ヘルプ：このウィンドウのヘルプ情報を表示します。

注：パッチソート中にスキャナーを無効にする何かが起こると（スキャナーを停止させてジョブを終了させる重送など）、有効なパッチソートルールが完了したとみなされます。そのルールに基づいて、これ以上は何のアクションも取りません。

[バーコードソーター] タブ

重送、サイズ、およびパッチソートルールはバーコードソートに優先します。

[バーコードソーター] タブでバーコードシートとバーコードシートの後のページをソートするオプションを設定できます。



- **オン** — バーコードソートをオンにして、バーコードソートオプションを使用可能にします。
- **ルール** — ルールは 8 つまで設定できます。表は、各ルールの詳細を示しています。列は[バーコード] ウィンドウからの各選択を示します。

  注：

  - ルールの順番は重要です。1 枚の用紙が複数のルールに一致している場合、一番目のルールが適用されます。
  - 各ルールには複数のバーコード基準が含まれる場合があるため（表に複数の行を入れることが可能）、各ルールはラベル（上のスクリーンショットの「ルール 1」のような）によって表内で分類されます。
  - いずれかのバーコード基準（いずれかの行）が選択されると、ルールが選択されます。

用紙の送り先 — 仕分け対象外のページのデフォルトの出力トレイです。

ルール用のボタン：

注：[削除]、[順位を上げる]、[順位を下げる] は選択した行だけではなく、すべてのルールに適用されます。



追加 — 新しいルールを作成できます。[バーコードソーター設定] ウィンドウが表示されます。

注：このオプションは、許容ルールを最大数まで作成した場合、使用できません。



編集 - 現在選択されているルールを変更できます。[バーコードソーター設定] ウィンドウが、選択されているルールの現在のオプションと一緒に表示されます。



削除 — 現在選択されているルールを削除できます。



順位を上げる — 現在選択されているルールを1つ上の順位に上げることができます。



順位を下げる — 現在選択されているルールを 1 つ下の順位に下げることができます。

自動回転後にバーコードを検索 — スキャナーが、イメージのテキストに向きを合わせるイメージの自動回転後に一致するルールを検索します。この設定は、次のオプションのいずれかを使用する場合のみ、バーコードによる仕分けに影響を与える可能性があります。

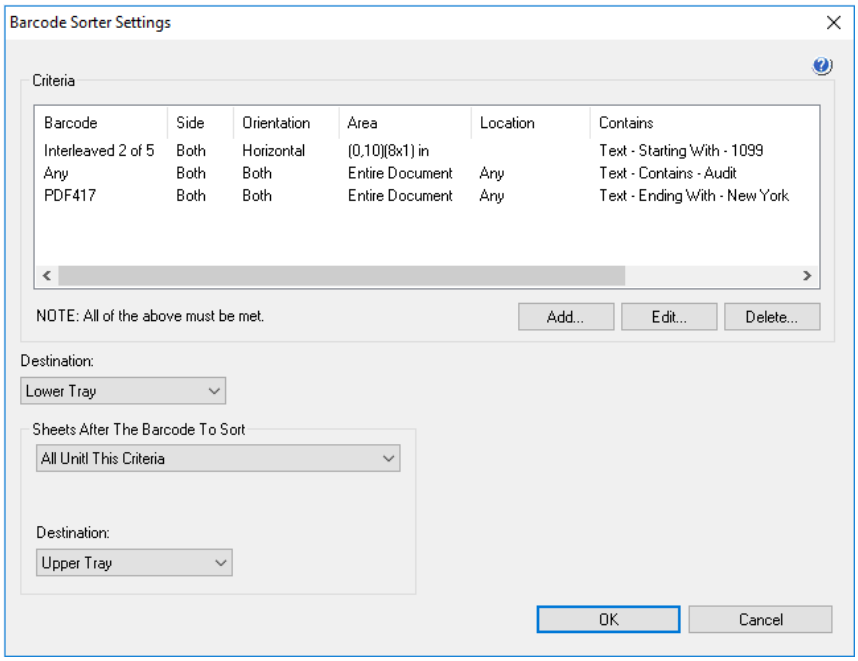
- *方向* 垂直または水平
- イメージ内の *領域*別にバーコードを検索
- *位置*に基づいてバーコードを選択（イメージの上下、左右を読み取る）

上記のオプションをどれも使用しない場合は、**[自動回転後にバーコードを検索]** にチェックを*入れない*でください。

注：このオプションは、ドキュメントのスキャン速度に影響を与える場合があります。

[バーコードソーター設定] ウィンドウ

このウィンドウから、1 つのバーコードルールのオプションをすべて選択できます。



バーコードルールの基準

バーコードルールには 4 つまで基準を設けることができます。ルールが適用れされるにはすべての基準を満たす必要があります。表は、基準の詳細を示しています。列は [バーコード基準] ウィンドウからの各選択を示しています。

基準のボタン：



追加 — 新しい基準を作成できます。[ソーター用バーコード基準] ウィンドウが表示されます。

注：このオプションは、許容基準を最大数まで作成した場合、使用できません。



編集 - 現在選択されている基準を変更できます。[ソーター用バーコード基準] ウィンドウが、選択されている基準の現在のオプションと一緒に表示されます。



削除 — 現在選択されている基準を削除できます。

送り先 — このルールに一致する各バーコードシートを搬送する出力先を示します。

バーコードシートの後のシートをソート — ルールに一致するバーコードシートのすぐ後のどの用紙を設定した送り先に送るか選択できます。

- **（なし）**
- **指定枚数**：**1** ～ **99** までの正確なシート枚数を選択できます。

- **基準に一致する用紙までのすべての用紙**：このルールのバーコード基準に一致する用紙の次の用紙までのすべての用紙が、定義した送り先に送られることを示します。

  注：ソートする原稿セットに枚数が分からない連続ページがある場合に、このオプションを使用します。この場合、このルールと同じ基準のバーコードシートを 2 枚取得し、1 枚をソートするページの前にセットして、もう 1 枚をソートするページの後にセットします。

- **バーコードシートの後のすべての用紙**：スキャンセッションが終了するまで、バーコードシートの後のすべての用紙が設定した送り先に送られることを示します。

注：

- 処理中のソートは終了するまで続きます。そのため、特定枚数の用紙をソートするというルールがあり、その枚数の用紙がソートされる前に 2 番目のソートルールに一致する場合、2 番目のルールは無視されます。
- ソートは次のいずれかのイベントで終了します。
  - スキャン停止
  - スキャンを停止させる重送
  - スキャンを停止させる紙詰まり

送り先 — このバーコードソートルールに一致する各用紙を搬送する出力先です。

注：*[バーコードシートの後のシートをソート]* が（**なし**）ではない場合のみ、送り先は使用可能です。

OK — 変更を保存してこのウィンドウを閉じます。

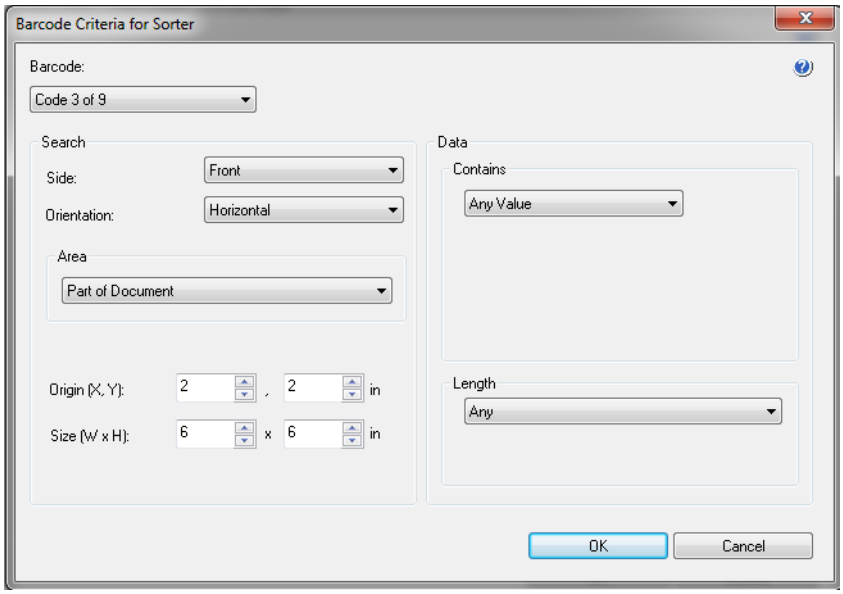
キャンセル — 変更内容を保存せずにこのウィンドウを閉じます。

ヘルプ：このウィンドウのヘルプ情報を表示します。

注：バーコードソート中にスキャナーを無効にする何かが起こると（スキャナーを停止させてジョブを終了させる重送など）、有効なバーコードソートルールが完了したとみなされます。そのルールに基づいて、これ以上は何のアクションも取りません。

[ソーター用バーコード基準] ウィンドウ

このウィンドウから、バーコードルール内の 1 つの基準のオプションをすべて選択できます。



バーコード — 用紙上で認識されるバーコードのタイプを選択できます。

- **Codabar**
- **Code 128**
- **Code 3 of 9**
- **EAN -13**
- **EAN-8**
- **Interleaved 2 of 5**
- **UPC-A**
- **UPC-E**
- **PDF417**
- **QR コード**
- **すべての 1 次元バーコード**：用紙上のすべての 1 次元バーコードが基準を満たすことを示します。（PDF417 と QR Code は 2 次元）
- **検出無し**：用紙上にバーコードがない場合にソートを実行することを示します。

注：

- バーコードソートに使用するには、バーコードに 4 文字以上含まれている必要があります。4 文字より少ない文字でソートする必要がある場合は、www.kodakalaris.com/go/IMsupport のサポートにお問い合わせください。
- バーコードは同じルール内の複数の基準で使用できます。
- バーコードは複数のルールで使用できます。

検索 — 用紙上のどこでバーコードを探すのかを示します。

- **読取り面**：用紙のどちらの面でソートするバーコードを探すのかを選択します。
  - **両面**：用紙の両面で探します。バーコードがどちらの面にあるかは問題ありません。
  - **表面**：用紙の表面のバーコードだけ探します。
  - **裏面**：用紙の裏面のバーコードだけ探します。
- **方向**：バーコードの向きを選択します。選択した向きのバーコードだけが、バーコードソート基準と照合されます。
  - **水平**
  - **垂直**
  - **両方向**
- **エリア**：用紙の検索部分を選択します。
  - **ドキュメント全体**
  - **原稿の一部**
    - **原点（x , y）**：（x）はイメージの左端からの距離、（y）はイメージの上端からの距離になります。
    - **サイズ（幅 x 高さ）**：搬送路に合わせた検索エリアの幅と高さです。
- **位置**：バーコードが必要な検索エリア内の位置を選択します。バーコードの検索はイメージの左上から右下へと行われます。
  - **すべて**：検索エリア内にあるすべてのバーコードを示します。
  - **1**：検索エリアで 1 番目のバーコードである必要があります
  - **2**：検索エリアで 2 番目のバーコードである必要があります
  - その他

  注：

  - *バーコード*が **[すべて]** に設定されていない場合、[位置] は使用できません。
  - *エリア*が **[原稿の一部]** に設定されている場合、[位置] は使用できません。
  - 用紙に複数のバーコードがあり、特定のバーコードに基づいて仕分ける場合は、[位置] オプションを使用します。例えば、紙の中心から下に 3 つのバーコードがあり、真ん中のバーコードに基づいて仕分ける場合は、**2** を選択します。

データ — バーコードデータに何が必要かを示します。

- **内容** — データのタイプを選択します。
  - **すべての値**：データは何でもいいです。このオプションを使用すると、バーコードタイプ（Code 3 of 9 など）で仕分けます。
  - **番号**：バーコードデータを最大 9 桁の番号で比較できます。数字がない場合は、スペースがあったとしても比較に失敗する恐れがあります。
    - **比較**：次から比較方法を選択します。**等しい、等しくない、より小さい、より大きい、以下、以上**比較では大文字と小文字を区別*しない*ため、「DATA」と「data」は同じです。
    - **値**：バーコードデータを比較するための最大 9 桁の数字を入力します。
  - **文字**：バーコードデータを文字列で比較できます。検索する文字数はバーコードの値の最初の4096文字以内にする必要があります。
    - **比較**：次から比較方法を選択します。**含む、等しい、等しくない、で始まる、で始まらない、で終わる、で終わらない**
    - **値**：バーコードデータを比較するための最大 32 文字を入力します。
- **長さ** — **1** ～ **99** の間で必要なデータ数を選択します（桁数と文字数）。
  - **すべて**：すべての文字数が基準を満たします
  - **等しい**
  - **等しくない**
  - **より小さい**
  - **より大きい**
  - **範囲内**

注：*バーコード*が **[すべて]** に設定されていない場合、データオプションは使用できません。

OK — 変更を保存してこのウィンドウを閉じます。

キャンセル — 変更内容を保存せずにこのウィンドウを閉じます。



ヘルプ：このウィンドウのヘルプ情報を表示します。

Kodak Alaris Inc.
2400 Mount Read Blvd.
Rochester, NY 14615

© 2016 Kodak Alaris Inc.
All rights reserved.
コダックの商標およびトレードドレスはイーストマンコダック社の許可を受けて使用しています。